

小樽商大学生会館落成す

緑 丘

全 国 版

(通巻)No. 38号
(39年度 2号)

(編集責任者)

大阪市東区道修町三の一二
塩野義製薬株式会社内
藤 目 英 三

(緑丘大阪支部)

大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル8階
サッポロビール(株)内

緑丘会理事長

佐々木周一

(大四)

小樽商大が市街地より相当隔絶した緑丘の上に在り、また学生寮も離れている。その上に寒冷の季節が長いのである。教官並に学生諸君が相集って互いに切磋琢磨できる学生会館の設置が切望されていたのは、もっとも至極である

然しさて学生会館の設置となると、資金の面その他の各種の事情で仲々難関が多かった。

加茂学長並に教官各位の懸命の奔走、文部省当局の理解、地元小樽市の援助及び同窓生諸君の資金的援助等の結果で、漸くその完成の運びとなり、この待望の学生会館が本年六月六日快晴の日に、開館式が挙行せられました。

会館の規模、設備は清潔で、誠に格好のもので慶賀の至りです。学校当局も学生諸君も囁かし御満悦のことと存じます。われわれ同窓生としても欣快至極であります。

然し問題はこの会館が、今後いかに経営し運用せられるかにあります。

教官各位の適切な指導の下に、学生諸君の叡智と努力に拠って経営運用の妙を発揮せられ、学生会館設置の本来の目的達成を祈念して止みません。

うまさもでっかい
話題の生ビール
サッポロジャイアンツ



KYC

最高の品質と 最高の技術を誇る

KYCの製品

コンベヤー関係

- ベルトコンベヤー各種
- クライマーコンベヤー各種
- スラッターコンベヤー各種
- ローラーコンベヤー各種

ミキサー関係

- コンクリートミキサー各種
- パッチャープラント各種

KYC ポンプ各種

計量器関係

- セミパッチャー各種
- KYCスケール各種

KYCモータープリー各種

総合建設機械のトップメーカー

KYC 光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村正美(昭17年)

本社	大阪市北区南同心町一丁目二番地	電話大阪(351)3 0 9 1~5(代表)
大阪支店	大阪市北区末広町一、二番地	電話大阪(928) 6 5 3 1~5
東京支店	東京都千代田区神田小川町二丁目三番地 (新小川町ビル)	電話東京(291)1 2 1 6・1 3 0 9 3 3 8 1~5
九州営業所	福岡市中浜口町一九番地	電話福岡(3)1 8 4 1・2 4 2 1
名古屋出張所	名古屋市東区堅代官町一四番地	電話名古屋(94) 1 3 1 5
仙台出張所	仙台市北二番丁八三番地	電話仙台(22) 5 2 4 7
札幌出張所	札幌市南十一条西八丁目五四一の二番地	電話札幌(25) 9868・(26) 7964
釧路出張所	釧路市大町一丁四番地(大町ビル内)	電話釧路(2) 1 5 8 3
高松出張所	高松市塩上町一八一番地	電話高松(3) 4 3 9 2
広島出張所	広島市松川町四の一番地	電話広島(61)7 6 2 0・9 2 4 8
富山出張所	富山市豊川町一七番地	電話富山(2) 6 5 0 5
工場	寝屋川・守口・吹田・東京所	

小冊子

読者の声

佐藤、加地両先輩の やりとりにふれて

岡本元次

(昭二二)

緑丘三七号三頁に、佐藤先輩が、加地先輩の浜さん追憶文(同誌三六号八頁所載)にからんで、先生が理解できなかった語は、False Teethではなくて、Plateではなかったかと問題を投げかけ、加地先輩がこれに答えて、False Teethが正しいという一文が掲載されている。加地先輩はその中で、私の先生に対する思い出の拙文の一節を引用されている。私はまことに光榮に思うのだが誌上を借りてこれに答える義務を感ずる次第である。

結論から先に申せば、私の記憶ではPlateである。私は思い出の記の中で、「……なんでも入れ歯の意味だったと記憶する。」と書いた方がよかつたように思う。私は当時は勿論、幸にして今でも歯の悩みだけは知らないが、その語は一字で、綴も短かつたこと記憶しているし、佐藤先輩からPlateという語を知らされたときこれだと思っ

た。前掲拙文にもふれておいたが、三年のとき J. Galthworthy: The Man of Property の講義を受けた際の話である。

「緑丘」誌基金に ついでに提案

石田平八

(昭二二)

先般の学生会館開館式の席上で東京の古関さんから「緑丘」誌発行の資金の面で墓目君に苦勞をかけるのは誠に気の毒だ。有志で基金を募集しては如何と誠に有難いお言葉を頂きました。これについては大阪支部としても更に研究を重ねたいと存じますが皆さんの御意見も聞かせて下さい。(緑丘会大阪支部長)

私の提案

水垣敏正

(昭二五)

去る五月の緑丘神戸支部総会の席上、私はかねがね同窓の皆様に訴えたいと思っていたこと―否それは会員の全部の声に通ずるものと思われぬ。「緑丘」誌発行に対する御協力の筋について、私なりの一つの提案を申し上げます。

「緑丘」は七年前に大阪で墓目さ

なが、地元同窓生の近況や母校のニュース等を知り合うために氏の御好意と同窓愛から発刊される運びとなつたものです。それが今日は、二千三百部の多数に及びしかも隔月に送られる本誌を皆様はどれほど待ちどろしく思われることか。そしてわれわれ同窓の共通の広場としてなんでもぶちまけることのできる(最も近親感を覚える)なくてはならぬ「緑丘」にまで育成されてまいりました。

三年前は極度の疲勞から失明の一步手前までこられたが、それでもペンを捨てず、また同窓本間広松君(昭八)の話によれば発刊当初は会費も集らず、印刷代や送費にことかくこともしばしばあり、そんな時には墓目画伯は個展を開いたり、同窓の若山君(昭一三)や本間君が持ち廻って買ってもらい、その費用の一部に当てられたとのことである。全く涙の物語りです。

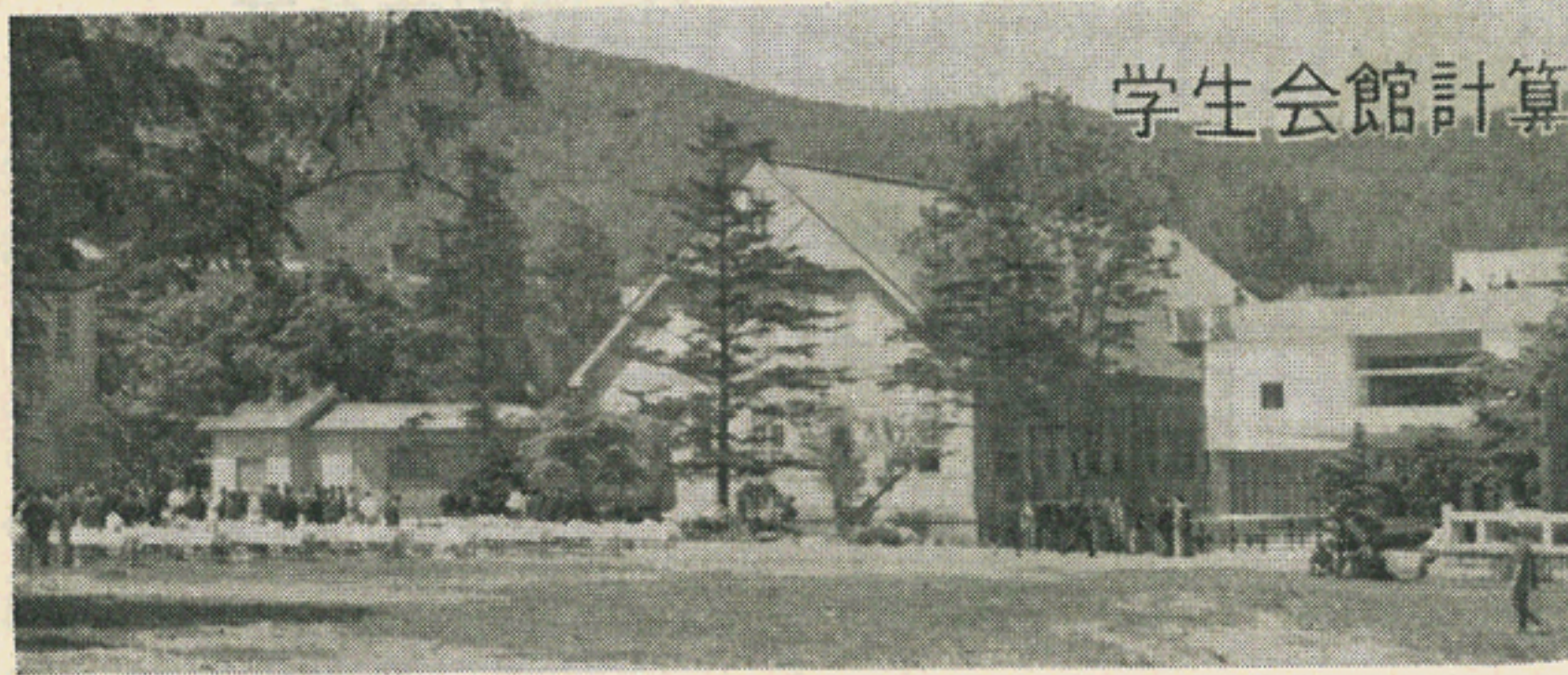
墓目さんの処には何かといえ、先輩、後輩が集り、親身も及ばぬ御世話を願っている。われわれは時折り、会社にお訪ねするのにも遠慮がちな「原稿を送る際なども「私宅宛に願います」と声を低められる程の御気づかいである。何かしら「緑丘」は連れ子に対する愛情で育てられているような気さえする。

この苦難の仕事が七年も続けられているのは勿論氏の母校愛と熱情に基くものであるが、それにもまして氏は「いや緑丘の皆さんからほんとうに喜んで戴いていますので、その感応に元気づけられて楽しいですよ」と一言の不平もいわず、何の見返りも期待されず、全く御仏の愛、止むに止まれぬ心情で育てられた「緑丘」だから誰しもその愛情を感じ「有難い」「すまない」と思っている筈です。

併し一番近くに居る私達も具体的に何一つ協力の実を示していないのみならず自分など年間僅か五〇〇円の誌代の送金を放っておいて昨日も二回目の請求を受けたつばら者、罰あたり者です。

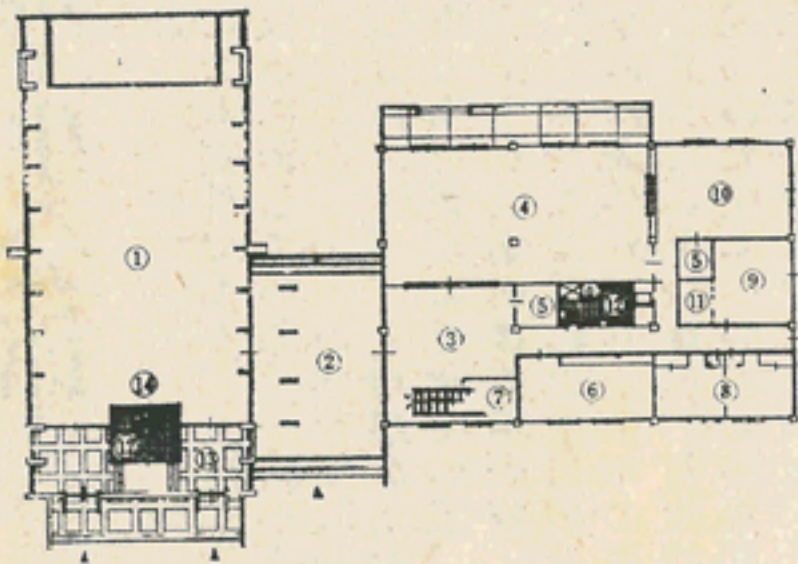
編集という大きな仕事の他に発信の整理、移動調べ、発送から会費の徴収、領収証の発行等の事務的な御世話まで一切を墓目さん御一家で引受けられているのです。これでは「緑丘残酷物語り」になりそうです。ところでその後何え、大阪支部総会でも、朝日運送の畑先輩(大一一四)の力強い御発言があり、それに対して学長はじめ御出席の皆様が御理解ある御言葉に是非何かの形で具体的に実行すべきだとの御賛同の声が高かつた由、嬉しいところで

また札幌における総会の席でも本件につきより話し合があり、すでに某先輩は卒業して、相当額の基金醸出の御申出があつたとのこと、期せずして東西各地呼応してこの空気が盛り上つてまいりましたことは全く有



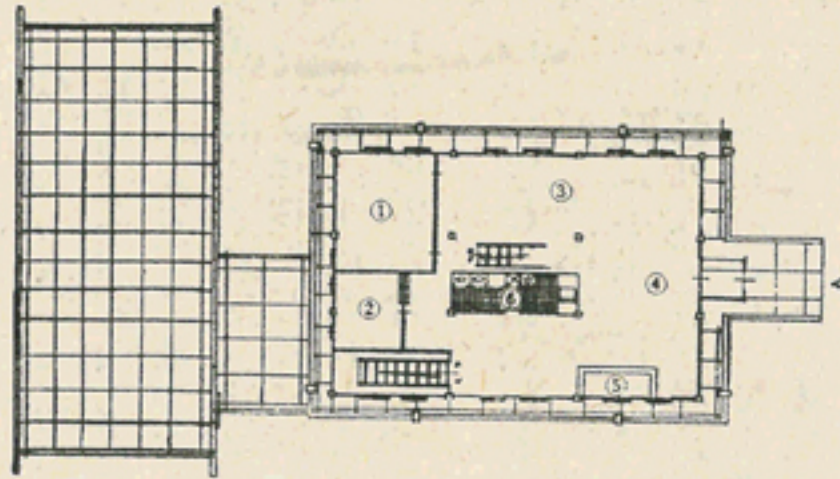
学生会館計算センター誕生

1階平面図



- 一階平面
- ① 大集会室 一〇四坪
 - ② ビロテ
 - ③ ホール
 - ④ 食堂
 - ⑤ 倉庫
 - ⑥ 理髪店
 - ⑦ 売店
 - ⑧ 休憩室 (和室)
 - ⑨ ボイラー室
 - ⑩ 変電室
 - ⑪ 洗面所・W・C
 - ⑫ 玄室
 - ⑬ 映写室

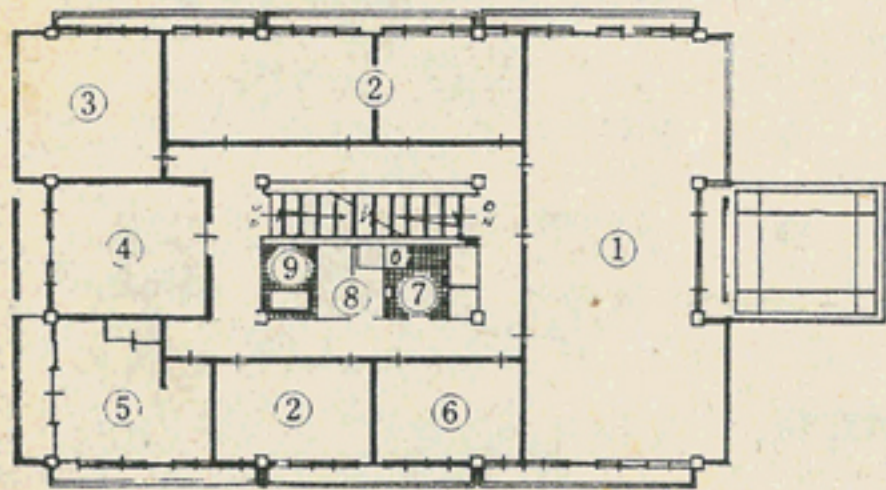
2階平面図



- 二階平面
- ① 娯楽室
 - ② 事務室
 - ③ 談話室
 - ④ 喫茶室
 - ⑤ 喫茶室
 - ⑥ W・C

- 三階平面
- ① 学生会体連絡室
 - ② 集直室
 - ③ 宿直室
 - ④ 音楽室
 - ⑤ 和室
 - ⑥ 学生事務室
 - ⑦ W・C
 - ⑧ 洗面所
 - ⑨ 浴室

3階平面図



学生会館建築概要

構造	RC造 (鉄筋コンクリート3階建)
面積	1階244坪 2階113坪 3階120坪 屋階5坪 計482坪
工期	昭和38年8月—昭和39年3月
設計監督	文部省教育施設部札幌工事々務所
施工	株式会社松村組札幌支店

難しい限りです、この機会に私案の一端を附記させていただきます。ことをお許し下さい。

(一)各支部から委員を選出して戴き一度懇談会を催して戴きたい。

(二)とりあえず編集、印刷までは現状のまま墓目氏にお願いすること。発送や会費徴収等の事務は本部に御取り上げ願う。

(三)現状を安定させるために同窓会ならびに会員各位から具体的な御協力をお考え願う。

(四)そして除々に全国的「緑丘」誌に統一し永続発刊のできる基礎固めをする。

(五)その後の段階「緑丘」の事業活動等は時を迫って会議を催し具体化する。

以上ぶしつけない表現で申述べましたことは深くお詫び申し上げますが、どうか皆様からも具体的かつ積極的な御提案と御協力の実を賜りますことを重ねてお願い申上げる次第です。

苔米地 英 俊

昨年迎賓館で八十年の長生を祝って頂き、その節記念品代を頂きましたが、長く遺し伝えるに何がよいかと考えぬきました末、二十一個の庭石、二つの「のぞき燈籠」を選定し表の入口と裏庭とに入れました。

「蝸牛草庵」もこれでどっしり致し、腰の据った恰好がよくなりました。朝晩半臥にも出入にも皆様の面影を忍び、感謝の情が燃え上ります。これを子孫に伝えるつもりでおります。

本年度特集号の構想

次号 陶磁器特集

本号で陶磁器特集を計画しましたが、紙面の関係で次号へ割愛いたしました。御寄稿賜りました執筆各位に御断り申し上げます。

なお原稿を続いで募集いたします。厚稿締切 七月三十日

写真 鮮明なものを御願いたします。サイズは名刷版以上

戦歿学生特集

終戦後十九年。緑丘人が若くして戦線に散って行きました。

☆学友を悼む

☆戦線の思い出

特に昭八から昭十九までの緑丘人が多く作成のために遺族を訪ねて写真など借用せねばならぬ場合もあろうかと思えます。編集部は責任をもつて返却いたします。

原稿締切 八月十日

小林多喜二特集

大二三、四の同期生には特にこの特集には今から構想を練って御準備下さい。

本誌一八頁掲載の通り展望台に小林多喜二この胸像が建立されますので之を機会に発刊したいものです。

資料・写真については何卒御協力賜りますよう御願ひ申し上げます。

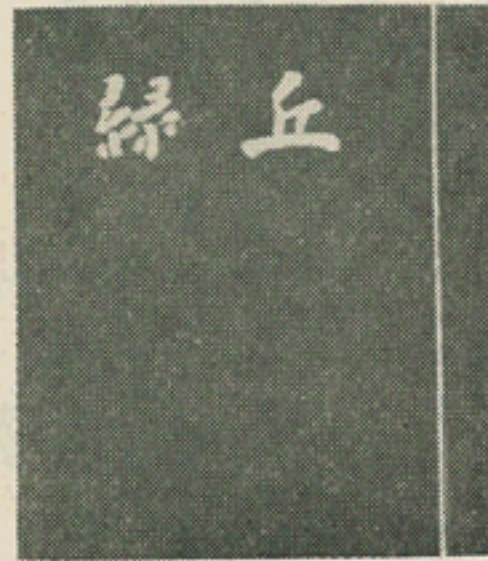
(編集部)

緑丘綴じ込み表紙 申込受付

「緑丘」綴じ込み表紙ができました。三九分分の「緑丘」を綴じ込めるよう計画しました。

希望者は二〇〇円お送り下さい。

大阪市東区道修町三丁目 塩野義製菓佛 墓目英三宛



広告お願い

一回 (一頁全段) 一三、〇〇〇円

一回 (1/2段) 六、〇〇〇円

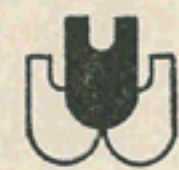
一回 (1/4段) 三、〇〇〇円

年間契約は特に割安に致します。

代金支払は誌上掲載後で結構です。

【広告原稿】は必ず白黒で願います。色彩原稿はもう一度トレスしなければなりませんのでお送りになりませんように。

広告マツタと美術印刷・紙工品



株式会社 三優社

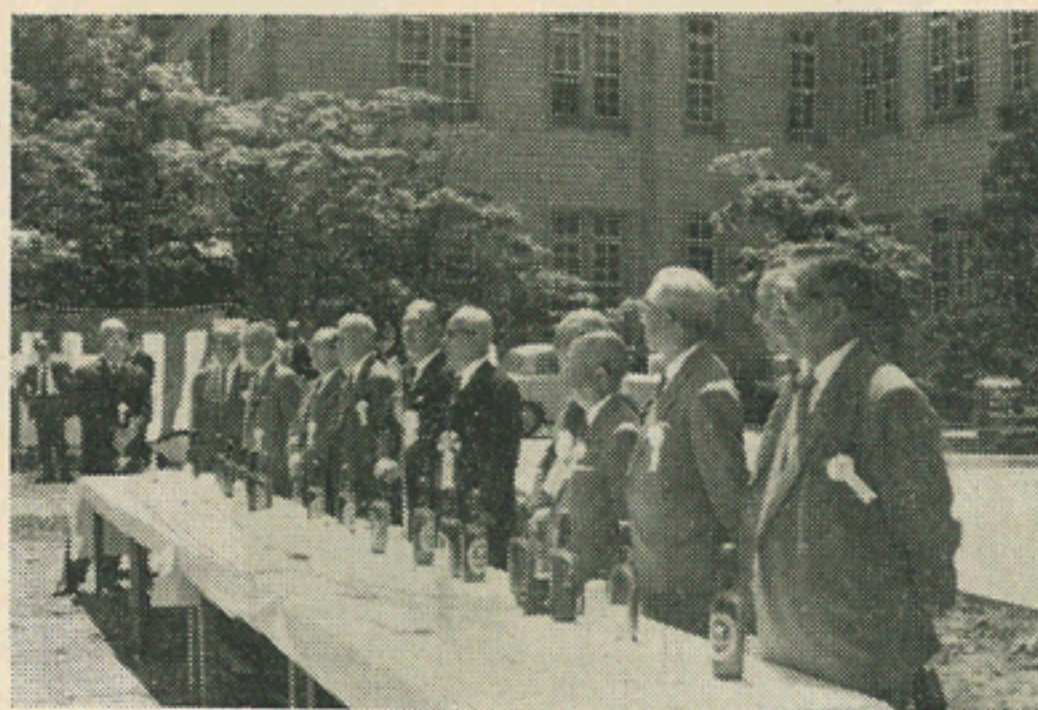
京都市下京区寺町通松原下ル
TEL. (35)0271・4950・7713
取締役社長 山村太兵衛 (昭12)

是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕

完成した小樽商大学生会館

ご自慢の音楽室 宿泊室はホテルなみ

学生会館が完成、六日開館式が終った。すでに館内にはロビーで教授や仲間同士とダベリ合ったり、娯楽室で碁や将棋に興じる学生の姿があるが、これまで学生や教職員がいこいの場所がなかった。同学だけに完成の喜びもひとしお。北海道新聞所載記事を紹介しよう。



鉄筋三階の近代建築
会館は昨年八月から工事にかかり総工費六千百万円。鉄筋コンクリート三階建てだが、坂道の多い小樽の地

形はここでも例外でなく、一階がしばふの校庭に面している。一階からはいると階段をひとつのぼって校舎の前に出るわけだが、それがかえってこの建て物を新鮮に見せている。会館が建てられた場所は旧第一寮（北斗寮）があった跡。この木造の老朽した寮には開学以来五十余年の歴史がきざまれていただけに、対照的な近代建築の誕生にかつての姿を知る教授たちは感慨深げな表情だ。

明るく快いロビー

二階が正面入口になるが、はいったところがロビー。海と山に面した両壁がガラス張り採光も充分、左手にコーヒースタンドもある。つきあたりが娯楽室で、碁、将棋の道具も二十組くらい。それぞれのテングの教授をつかまえてギャンブルといわせるのを楽しみにしている学生もあるとか。

屋上のながめは絶好

中央の階段から三階にあがると学生団体連絡室があり、自治会執行委員会や社会科学部研究サークル連絡協議会のへやが並び、学生活動の本拠になる。いままでの講堂下の地下室生活から文字通り日の当たる場所に出たわけ。「学校関係のお客さまをお泊めする」という宿泊室はホテル並み。と自慢するだけあって豪華だ。もちろん浴室完備。もうひとつの自慢は音楽室。へや自体は小じんまりしているが、音響

効果もじゆうぶんで、なによりも特別設計の背をゆったりともたせかけてすわれるいすが好評。小樽商大のある緑ヶ丘そのものが小樽市の展望台だが、会館の屋上からは町並みと小樽港、それにつらなる石狩湾、増毛連峰がはるかに見渡せ、これからはロビー以上に学生たちのいこいの場になりそう。

大集金室は募金で

一番あとまわしになったが、一階が食堂、理髪室、売店など。食堂は九二・四平方あり、生協問題でまだ開業していないが、これも学生の期待のマト。一階と渡り廊下でつながる別むねの大集金室（三四三・一平方）は同学の同窓会「緑ヶ丘会」が募金二千二百万円で造ったもの。現在の講堂はもうほとんど耐用年数がきた。危険建築。だけに四百五十人収容の大集金室はこれからフルに活用される。映写設備もあって用途は広い。

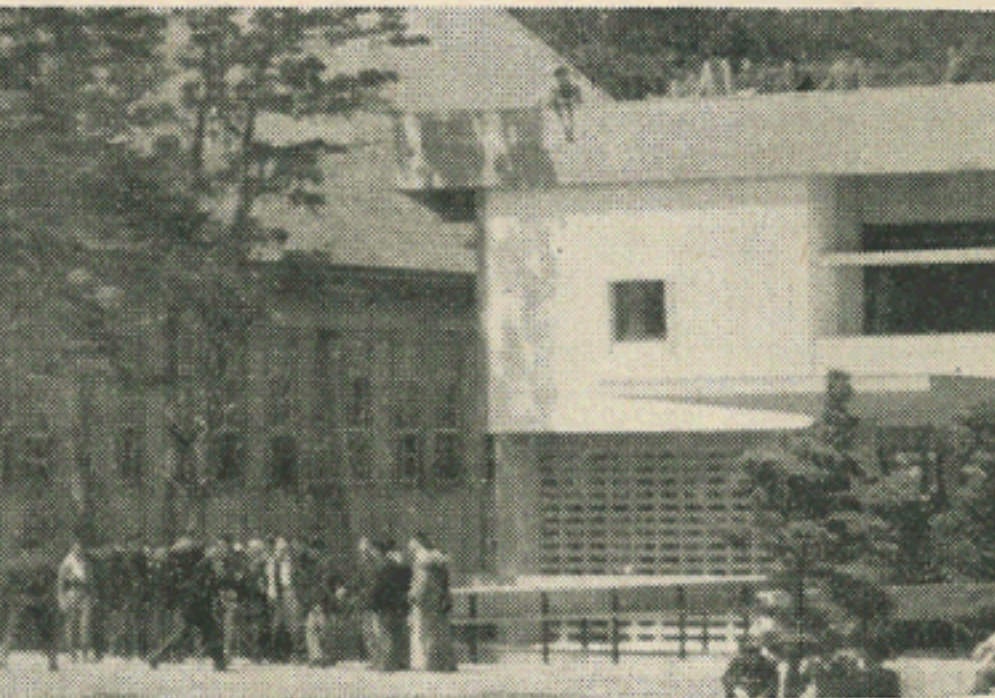
運営については学生会館運営委員会が当たるが、大学側からは学長が委嘱する館長（学生部長）ほかひと、教官代表五人、事務局長、各課長、短大事務長の合わせて十二人、それに学生代表十一人が委員で、会館の予算、決算をはじめ行事計画、運営上の具体的問題のすべてを協議する仕組み。会館の使用許可願に對し館長が不許可にしようとする場合は同委員会にはかる、という内規もある。残されているのは会館の新設にもなる生協設立問題だけ、これも学生をふくめた全学の準備委員会を設けて話し合いを進めている。

計算センター建築概要

構造 R/C (鉄筋コンクリート平屋建)
面積 昭和37年度 建築45坪
昭和39年度 増築20坪
設計監督 小樽商科大学会計課施設係
施工 阿部建設株式会社

計算センター施設

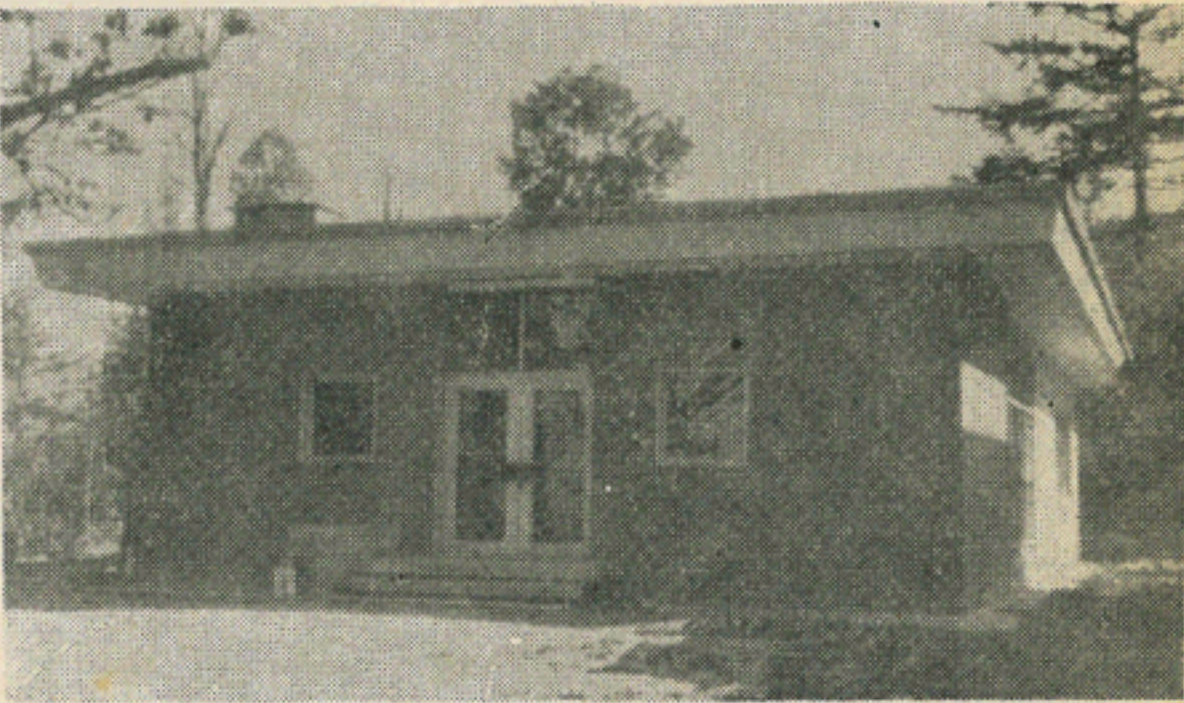
機器番号	機器	数量	備考
	OKITA C-5090H 本体及び操作卓	1式	磁気コア 8192ビット 1路2連42桁 演算速度 固定小数点 加減算 33,000回/秒 乗算 4,000回/秒 除算 2,800回/秒
5091	電動タイプライタ	4台	2台はカナ文字を含む
5093	高速度印刷装置	1台	250行/分 (カナ文字を含む) (チャンネルコントロール付)
5094	高速度カード読取装置	1台	500枚/分(チャンネルコントロール付)
5095	光電式テープ読取装置	1台	200字/秒(チャンネルコントロール付)
5099T	磁気テープ装置	4台	45KC(チャンネルコントロール2台付)
FACIT	高速度テープ穿孔装置	1台	150字/秒(チャンネルコントロール付)



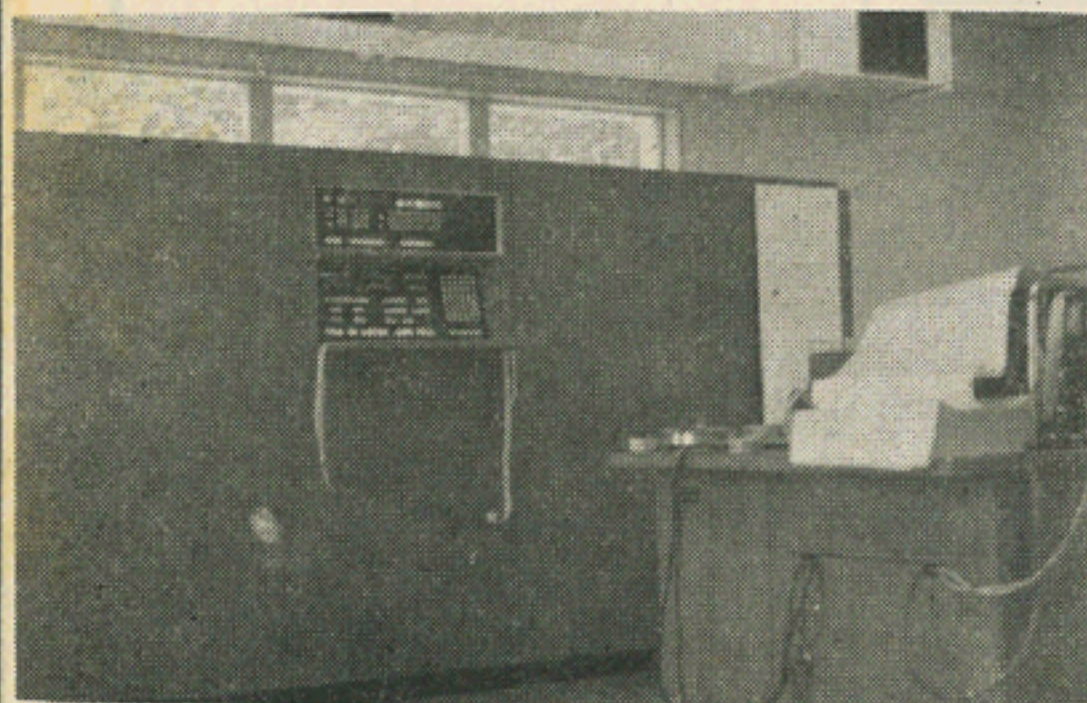
母校に招かれて

宮地 邦 介
(大一一)

不肖私が後援会募金に僅かばかり御協力申し上げたという訳で関係各意の御厚情により誇り高き母校に招かれて学生会館、計算センターの開館式に参列させて頂きましたことは身に余る光栄に存じました。新緑に包まれた母校の偉容は新装なった会館と計算センターにより更に一段と光彩を放ち、血の純血を誇る緑ヶ丘人が等しく吾等の一大象徴と



計算センター全景



計算センター内部

学生会館開館式に出席して

石田 平 八
(昭二)

風薫る六月六日母校に於て学生会館開館式が挙行されたので大阪支部から宮地、大久保、藤目各氏と共に私も出席してきた。加茂学長は関西に來られる度毎に学生達のために学生会館を建ててやりたいと口癖のようにいつておられた。従って創立五十周年記念事業の一つとして学生会館建設の議が上ったとき、私達の間で積極的に推進しようとい決したのも日頃の学長の執念があったればこそである。私が私は開館式に出席して学長と学生のつながりを見て成る程、これあるかなと感じ入った次第である。開館式での感激に満ちた学長の式辞とこれに聞き入る学生。またささやかな祝賀宴の後のストームと学長。学長は学生を愛し信頼し、学生は学長を敬し慕い、全く渾然と融和した両者の関係を私は眼のあたりに見てきた。私は学長とお別れの握手を交しながら涙が出てどうにも困ってしまった。そうして緑ヶ丘人の一人として私はいいことをしたという感激と満足感に浸りつつ地獄坂を降った次第である。(緑ヶ丘会大阪支部長)

学生会館と モツソウ

大久保 鹿 式
(大一二)

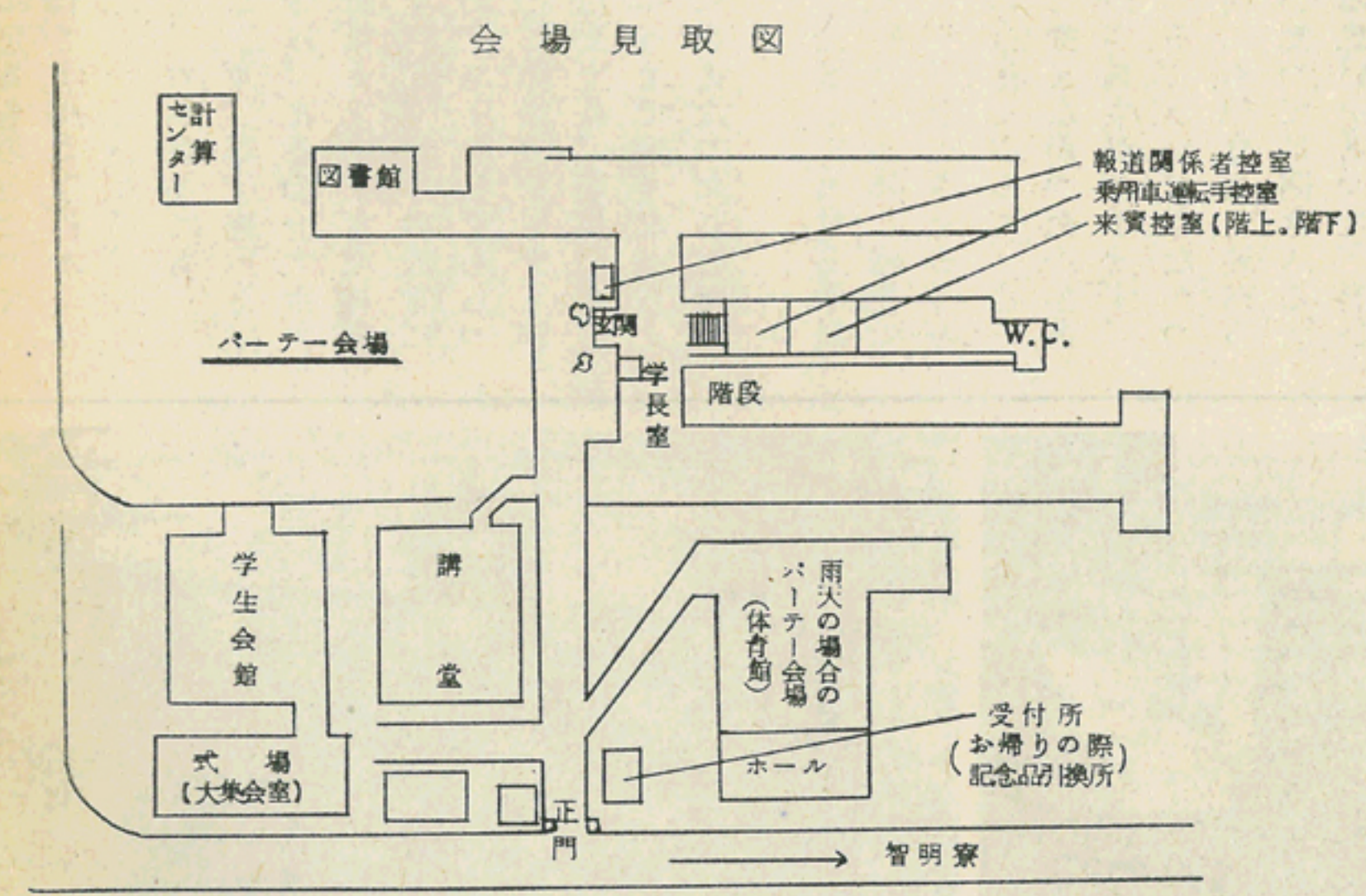


六月六日正午のことである。母校の新築成った学生会館式を終って、式場の一階大集会室から吐き出された数百の参列者は、ピロティをへて同じ一階のホール・食堂・売店・倉庫・理髪室と見て廻り二階、三階と進むにつれ、その構造が余りにもモダンであり立派であり、凡そ自分ら

が過去に持った大学の学生会館としての常識と余りにもかけ離れたものであるため感嘆これ久しうせざる外なかつた。
本館前の校庭には二階のロビーが玄関となつて出入ができるのである。今日の祝宴場は本館前のなつかしい芝生である。きれいに晴れ渡った空からは陽光燦々と降り注ぎめずらしく汗ばむ程の暑さであった。ライトグリーンの色一しお映える本館を背に、内地組はメーンテールの西端に並ぶ。参会者は五百人位であつたろうか。立食のパーティである。
簡単な学長の謝辞、理事長の祝辞で乾杯など型通りに進んだ宴半ばのこと佐々木理事長が突然「学生諸君折角できたこの学生会館を汚さないで下さいよ」と大声に呼びかけられた。この発言には大きく共鳴を招き拍手は一きわ鳴り響いてやまなかつたくらいであった。
内地のどの大学にも見ることのできない位モダンで潇洒で、恰も一流ホテルのロビーの観ある新装の学生会館を、学生諸君は一体どんな扱いをするのであろうかと今日の参列者の押なべて頭にひらめいた疑問であつたであろう。佐々木理事長はこの疑問を更に進めて汚さないようとの願いを素直に述べられたのである。
小樽高商として開校した初代校長渡辺龍聖先生は遙かに笈を負うて入学して来る学生に対して紳士の礼を以て遇すると誓われた。蜜カラな中学生生活を送ってきたばかりの学生達は面喰つたであろう。それでもにわ

小樽商科大学 学生会館 計算センター 次第開館式

一、開式
一、祝電披露
一、感謝状の呈
一、閉式
一、祝電披露
一、閉式
一、閉式
一、閉式
一、閉式
一、閉式
一、閉式



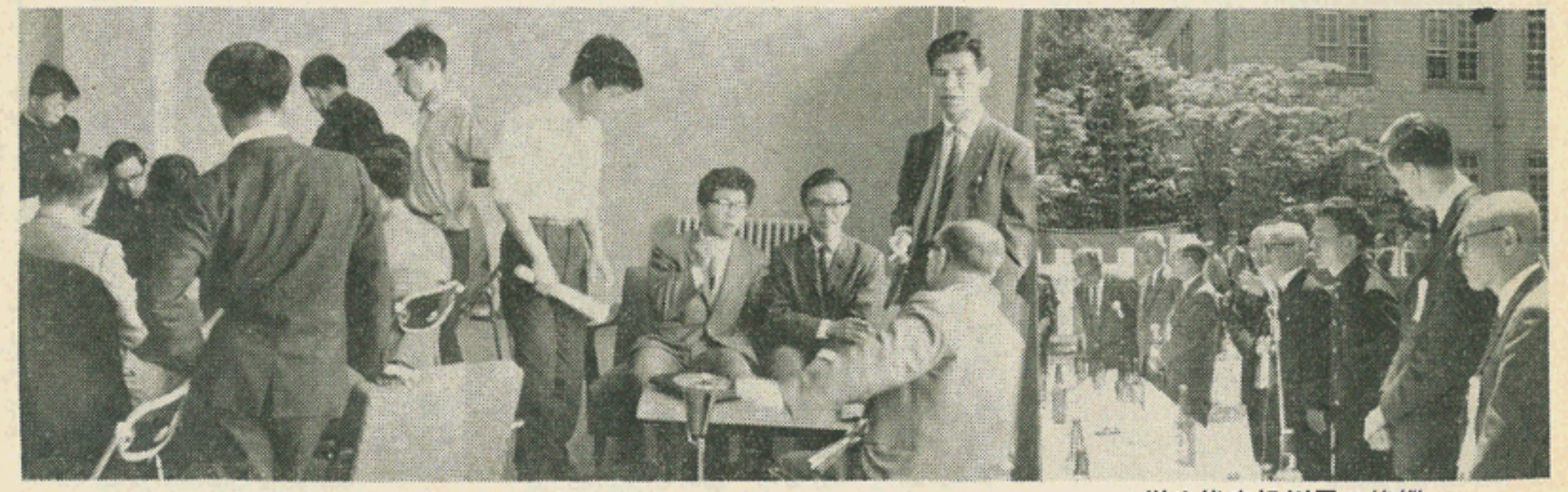
式場学生会館

緑 丘

か分限者よろしく、嘴の黄色いのも忘れて神妙になつたものである。現在は昇格して大学生であるから、よりよき紳士であることに間違いはない。学生会館が分不相応とたとえ一瞬でも考えたのは吾々の僻であつた。佐々木さんの注意は認識不足の咎を免れまい。現にこの会場に列席の学生は皆制服制帽に姿勢を正して醜い姿は一人もない。流石大学学生会館は分相応である。

私は惜みない讃辞を送り、祝福の限りを尽してそれからおよそ一時間後、下から呼んでもらつたタクシに乗って地獄坂を下つて行つたのであるが、その時下から上つてきた三々伍々の着物姿の学生は、宴会場に制服制帽に威儀を正して列席した学生紳士とは凡そ縁遠かつた。何年も頭髪を刈つたことも、洗つたことのないような髪毛は首の下まで垂れ下つて、とてもこの世の人とも思われない山窩である。羊糞色の紋付羽織、垢光りする袴、肩いからして歩く恰好は比島の山奥に拾数年隠れておつた逃亡兵の再現そのものである。南大生に間違ないことは破れた正帽をかぶつておるので証明された。私はここで自分のイメージを粉砕させられたことに気付いた。また佐々木理事長の御心配は現実のものであつたことに気付かざるを得なかつた。

稚氣愛すべき若者のモツソウ姿と簡単に見逃すには余りにも時代のズレが大きいのを悲しむ。これは年配者の勝手な解釈であろうか
(母校学生会館開会式に参列して)



開館早々2階娯楽では囲碁がはじまった

学生代表松川君の挨拶

小樽商大の未来図実現へ

開館式録音テープ

☆学生会館開館式の模様はテープに録音されたが、緑丘編集部は直ちにこのテープを再録し、七月十一日京阪神支部合同ビルパーティ席上で、当時の模様を開館式に出席出来なかつた緑丘人のために公開した。学長の約二十分に亘る挨拶は緑丘人の心に将来の構想が刻まれ、管理科学と電気計算機の連関運用が単に経済資料の集成発展に寄与するのみならず図書館の図書管理や閲覧にも便ならしむとの構想は大いなる感銘を与えた。昼間のならず夜間中を通して

新体育館

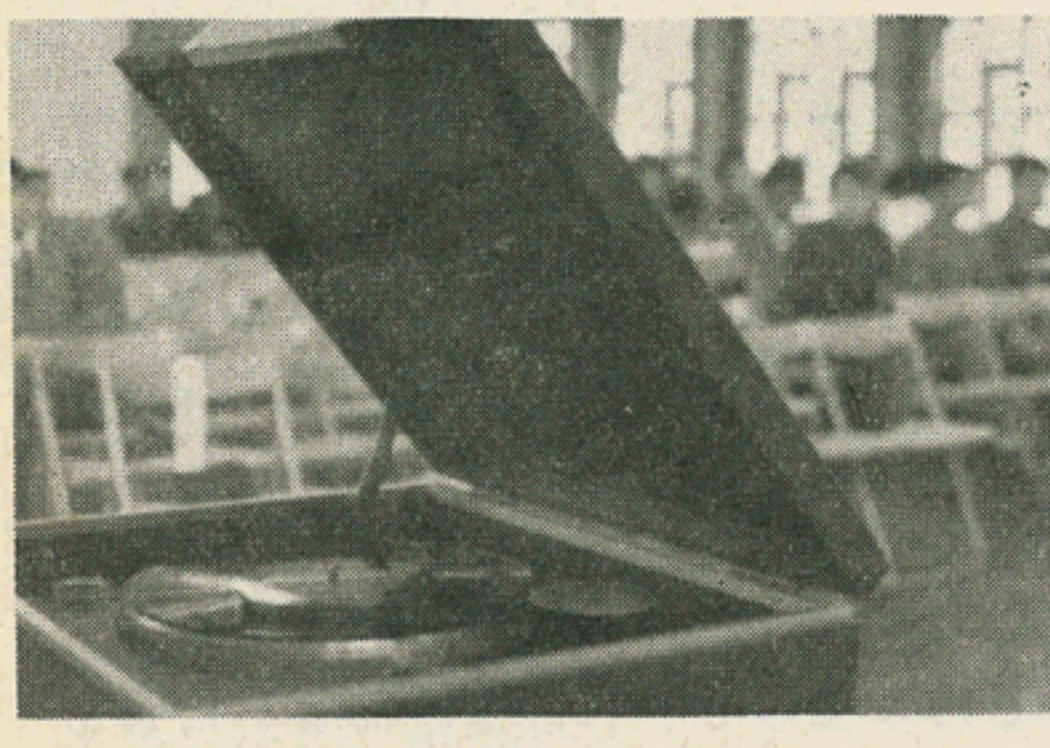
☆約三千五百万円の予算内示のあった体育館(建設面積約千八百平方メートルの新体育館)は本年度中に着手の予定。

計算センター増築

☆今開館式を終つた計算センターは電子計算機を入れるため、山手の方へ更に増築を開始した。竣工の予定は九月末である。

ナショナル寄贈によるステレオに学生の人気が集まり集会所では試聴会が行われ

二階喫茶室は先輩のオチサンで一杯でし(来賓者にはコーヒー券をサービス)



学生会館、計算センター 開館式によせて

小樽商大学長 加茂儀一

今回の学生会館、計算センターの開館式にあたって全国から緑丘会員各位並に今回の募金関係の代表者ら多数来賓の御臨席を頂きましたことは母校一同にとりまして、全く光栄の至りでありました。私の式辞において述べました通り心から私は御礼申し上げます。

式日の六月六日は幸い天候に恵まれ、その前日と、その翌日ともに、天候が悪かったことを考えあわせると全く天の加護のあったことを思わざるを得ない。

式に列席された方々から一同学生会館の立派なこと御褒めの言葉を頂いたことは、私らにとりては何より嬉しいことでした。これも一遍に文部省は元より、とくに後援会とその母体である緑丘会のお蔭であることをひしひしと感ずる。普通の予算ではあれだけのものは出来ないからである。文部省、後援会（これには当然寄附者も入っている）、同窓会、工事関係者、母校のこれらの全体的協力的精神があつてこそ学生会館も計算センターもこれだけ立派に出来たのである。最初の設計を見

ろうことを期待している。この会館はいうまでもなく、誰の専有物でもなく、教官、学生は勿論事務の人々さらに緑丘会員の方々にも開放されており、私の考えではいわゆる緑丘人のすべてが享受できるなごやかな共同施設であつて、この施設が学校は勿論緑丘会員全部のみんなの場である。この会館の建設によつて緑丘全体の融合がより一層強化されることを望んでやまない。それはまた緑丘精神の発展にも通ずると思う。

五十有余年の歴史をけみし、幾多の先輩によつてきざされながらも来たこの緑丘は、いまま猶力づよい歩みをつづけている。時代時代にさらによりよきものを創造してゆくことが、先輩のあとにつづく者の義務であらう。われわれは、その意味でいろいろな困難を克服してゆかなくてはならないと思う。お蔭で、この緑丘こそ先輩、後輩を通じて団結力の強いことは他校に、その比を見ない。お互いに手をとりあつて緑丘学園の発展に力を尽したい。

その意味で今度の学生会館並に計算センターの開館式は新しい門出の第一歩である。開館式の六日は早くから予定していたが、工事がおくれり、文部省の許可などが、そのためにおくれりたりして開館式の直前まで内部的にはきまらないことがあつたりして、種々の点で不備のところも多々あつて、折角御来臨願つた各位に御迷惑をかけたこともあつたと思うが、右の事情を御含みの上御寛容願いたい。いろいろと御好意有難う。

お断り



お申込について

「緑丘」は営業用雑誌でありませんで、たとえ七月にお申込み（送金）されても十二月に申込みされても、翌年七月或は十二月までが一年分ではありません。全部三月末をもって、その年度の分は終りといたします。

そのために、その年度の最終号に申込開始とらつております。それでも申込みない方には、ハガキを二回（催促状）も出して督促申上げております。

この催促状の費用は全部、先に申込み下さいました方々の負担金で賄つていきますので、一せいに申込みただければ、それだけ立派な紙質の「緑丘」が出来上つてくる事になります。

現在の状態では人手不足で、細い手の込んだ作業は出来ませんので、何月にお申込み下さいまして五月から翌年の三月までが一年度でありますことを御承知下さい。

新潟震災お見舞御礼

佐藤 正夫 (昭五)

地震御見舞ありがとうございました。心から厚く御礼申し上げます。幸い拙宅の方は家や土蔵の壁が落ちた程度で、これという被害がありません。せんに何卒御放念下さい。しかし村全体として相当の被害がありまして村には災害救助法が適用されることになりました。貴支部会員各位にくれぐれもよろしく願ひいたします。(新潟県岩船郡関下九一五)

野沢 正一 (昭一一)

この度災害に際しては種々御配慮に預り厚く御礼申し上げます。お蔭で当地区は地盤がよいので大した被害もなく不幸中の幸いと存じております。一瞬の激震と同時に地割れ水攻め、津波、重油タンクの爆発、延々と果てしない避難民の群、一時は生地獄そのまゝでした。信濃川港湾べり謂所ゼロ米地帯の惨状は特に凄くようです。(新潟市藤見町一 市宮住宅一号)

池田 繁正 (大一一)

この度の新潟地震について早速御丁寧なる御見舞状を賜り有難く厚く御礼申し上げます。幸い当町内は被

害殆んど無く喜んでおります。しかし一度下町に下ると特に信濃川畔や臨港地区は地震と津波にて全く目も当てられぬ惨状でお気の毒の至りでありませぬ。一同協力して復興に邁進いたします。(新潟市松波町一丁目十三)

真藤 松吉 (昭五)

この度びの新潟地震に際し早速態々丁寧な御見舞の便りを下され誠に恐縮に存じます。佐渡ヶ島では両津地区に津浪による浸水被害が甚少であつただけで私達の方は被害は極く軽微で被害という程のものではありません。全く不幸中の幸いとも申しましようか。同窓の皆様宜敷く御伝え下さい。(新潟県佐渡郡佐和田町沢根)

八木 四郎 (昭一一)

新潟地震に対する御厚情溢る、御書状拝見致しました。当地もかつて経験せざる程の震動に大変驚きましたが被害は皆無でしたので何卒御放念下さい。今回の地震は新潟市周辺に集中した恰好になって目下県都を救えと云う気運に燃え立っておりませぬ。当地は新潟県と申しまして、最西端に位置し新潟市に行く時間で富山、石川両県を越して福井県に行

小林 靖 (昭三六)

先日は新潟地震の見舞と共に「緑丘」三十七号をお送りいただき感謝の念で一杯です。幸い当地は大きな被害を受けずに済みましたことをご報告申し上げます。偉大な先輩諸兄の古き良き時代の思い出で満ち満ちた本誌はわれわれの如き卒業年度の新しいものには何となく近づく難く思われたいと思つておりました。お贈りいただいた三十七号に若手緑丘人の活躍振りがうかがえて急に親しいものになったというのが本音です。御好意を有難くお受けいたしますとともに次号の発行を心待ちしております。(新潟県柏崎市柳橋二ノ九三)

技術革新に貢献する



丸嘉機械株式会社

大阪(本社)・東京・名古屋・岡山・広島・姫路・仙台

異動

栄転

遊佐憲三(昭七)
ロイヤルホテル専務取締役
札幌市南七条東一丁目
久保吉幸(大一一)
株式会社大広本社管理室(京都支社)
亀井尚一(昭一八)
東京銀行神戸支店(カラチ支店)
鈴木弘一(昭一一)
東京都千代田区神田花岡町一
日本運輸倉庫株式会社本店
梶川亨司(大一一)
名古屋女子大学(岐阜大農学部)
藤田小四郎(大一一)
北海道日本大学高校(美唄東高
校)
松岡俊一(大一一)
神戸市生田区京町七二クレセント
ビル六階 大陽鋳工株式会社
西野嘉一郎(大一一)
芝浦製作所副社長(専務取締役)
根田順治(昭三)
住友海上火災保険常務取締役
(取締役調査室長)
三浦儀三郎(昭五)
日本調査株式会社常務取締役(日
本生命)
村田久夫(昭一〇)
株式会社北川鉄工所取締役労務部
長
勝海隆(昭一八)
札幌東商業高等学校(阿寒高等学
校)

大崎敏夫(昭一四)
安宅産業東京支社建材部へ(大阪
本社)
関晃(昭一九)
小松製作所札幌支店長
田川政夫(昭三六)
中央信託銀行札幌支店
阿部卓治(昭一五)
東京都渋谷区千駄谷四ノ六
佛藤田組(大阪支店)
太田正勝(昭一四)
住友海上火災保険新浜支店長
(神戸支店次長)
宇佐美俊彦(昭六)
乾汽船取締役(大阪商船三井船
船)
中尾雄平(昭三四)
日本生命札幌支店第一月掛支部
(同社小樽第九月掛支部)
札幌市北三条西三三四四丁目
米川正哉(昭一五)
伊藤忠商事砂糖食品部長(ハンブ
ルク支店長)
栗野俊助(昭一二)
丸紅飯田佛取締役(米国会社副社
長)
山崎真治(昭三一)
雪印乳業株式会社管理部管理課(同
社大阪都島工場)
堀池善弥(昭五)
浪速いすゞモーター佛取締役社長
大阪市北区芝田町一〇八
電話(三一一)七四二一―五
神谷彰一(昭一五)
大和銀行佐野支店長(管理部次長)
金垣英雄(昭一三)
太平エンジニアリング株式会社々
長 東京都文京区元町二丁目七
(大平工業ビル内)

星野貞(昭一六後)
日商株式会社取締役燃料本部長
杉本敏雄(昭一〇)
日魯漁業株式会社大阪支店長
大阪市東区高麗橋五の五〇朝日ビ
ル 電話(二〇二)八〇六一
山口恒四郎(昭一一)
第一海藻工業佛(佛オーエム製作
所退任) 東京都武蔵市吉祥寺東
町三ノ一三ノ一四
樋口健三(昭一一)
日本海汽船佛大阪支店長 大阪市
北区宗是町一番地大ビル四九号室

退任

松本周三(大一一)
石川興業株式会社大阪支店長を
(自宅電話) 大阪〇三五〇〇

住所変更

遊佐憲三(昭七)
札幌市琴似町二条五丁目
久保吉幸(大一一)
吹田市垂水六八〇
鈴木弘一(昭一一)
船橋市高根台町五丁目一
日本住宅公団二七六棟二〇二
広海一四郎(昭三六)
東京都港区麻布本村町八三 島本
融方
藤田小四郎(大一一)
白老郡白老町ポロト地区第二
松岡俊一(大一一)
神戸市須磨区一の谷町二ノ七五ノ
五
山崎真治(昭三一)
東京都世田谷区烏山五六一

鳥山第一団地一ノ一
丸山堯(昭五)
長野県上水内郡豊野町県住六
吉田平太郎(昭九)
札幌市美園四三三丁目
三谷晃一(昭一七)
福島市上荒子一番地
勝海隆(昭一八)
札幌市菊水南町四丁目三一番地
細野一夫方
中尾雄平(昭三四)
札幌市北二条東九丁目
井上了介(昭一七)
仙台市石切町三ノ九
笹原英信(昭一六後)
東京都新宿区坂町九
山本博(昭一)
東京都世田谷区廻沢町八番地
未広荘二階六号
富永義(昭一三)
東京都大田区雪ヶ谷六一五
丘村良朔(大一一)
大阪市東住吉区瓜破国塚町住二
ノ五六
金子平次郎(大六)
宇都宮市戸祭町一、八六六
岡部武雄(昭一三)
大阪府豊中市末広町三丁目四番十
号
吉川浩(昭三四)
大阪府茨木市中城五一五
公団住宅一〇三〇一
北村太治郎(昭五)
東京都杉並区今川町三丁目七
金津良三(昭一六)
東京都北区赤羽北三丁目二七ノ八
竹井虎男(大七)
西宮市仁川段上町六丁目
(一七頁へつづく)

楽我記



『緑丘追想』の発行と、その後

稲垣芳雄 (大六)

1 私たち第四回生一〇四名が小樽高
商を卒業したのは大正六年でしたか
ら、去る昭和三十二年は、卒業満四
十周年に当たっていました。

同期生中最も若かった私でさえ、
その年は世にいう還暦を迎えるので
すから、すでに耳順の域を越えたひ
とが多く、最年長の級友などはたし
か古稀に達していたかと思えます。
当時消息の不明明のひと若干あ
りました。一〇四名の同期生の約
半数は、どうも鬼籍に入って地上か
ら姿を消していました。

2 ことに昭和三十一年十月から三十
二年にかけて、中憲太郎、小池大史
郎、佐々木大助の三君が次々に亡く
なりました。

3 東京とその附近に在住している第
四回生は、昭和二十六年一月から、
「大六会」と称するクラス会をつく
り、常任幹事に五味泰造君が当り、

楽我記

当番幹事は交替につとめて、時々会
合を開き旧交をあためていまし
た。

この大六会のメンバーであった三
君がわずかの間に続いて他界したこ
とは、何かしら急迫した感じを私た
ちに与えたのは事実です。

昭和四十二年になりましたと、母校
の門を去ってから半世紀―五十周年
になります。その時には最年少のも
のでも古稀に達しますし、中には喜
寿の賀に近いもの、あるいはそれを
越えるものがでてきます。しかもあ
と十年、その間にはおそらくまた何
人かの級友が、幽冥境を異にするか
もわかりません。

4 実はその前年の昭和三十一年の秋
ころから、大六会が発起し全国の同
期生に呼びかけて、卒業四十周年の
記念のくわだてを何かやろうと、ぼ
つぼつ話しあってはいました。

昭和三十二年七月二十九日、たし
か第十九回の大六会に、いよいよそ
の記念のくわだての案をたてて相談
しました。そして満場一致で決定し
直ちに実行に移ることになったので
す。

それは、級友またはその家族の写
真と、級友みずから執筆した回想記
を寄せてもらい、それを編集して一
巻の本を作成、配布しようという案
です。

5 五味泰造、橋本一の両君と私の三
人が実行委員になって、趣意書を全
国の級友に発しました。
なかなか原稿や写真が思うように
集らず、現存の級友全部の分を網羅
できなかったのは残念でした。同年

十二月に入ってから本格的に編集を
始め、校正を終えたのは翌三十三年
一月十日、印刷製本が完成したのは
一月二十日でした。

回想録は「緑丘追想」と題してB
5判、濃紺の布表紙、写真約四十を
入れ内容は百二十ページ、最上質の
紙を用いかなりの豪華版になりました。

巻頭には、私たちの卒業時と現在
の母校、昭和二十六年一月開いた第
一回の大六会、昭和三十一年十一月
十九日開いた卒業四十周年記念祝賀
の大六会、およびその日のよせがき
等数葉の写真を加えました。

6 その「緑丘追想」のはしがきの中
に私は次のようなことを書いていま
す。

「(略)長い過去をかえりみると、
緑丘の学窓に在った三年間は、何と
言ってもわれわれの黄金時代であつ
たと思う。ほとんど全国各府県から
母校に集まり、学年を同じくしたわ
れわれは、その時まで未知無縁のも
のが大部分であった。

それが三年間生活を共にしている
うちに、生涯を通じて離れることの
できないきずなで強く結ばれた。た
しかこれは一生を支配する大きな選
好であったのである。

旧友を恋うる思いは、よわいを重
ねるにつれてひとしお深くなってい
る。共通の回想と印象は、過ぎ去つ
た歳月を超えてわれわれの胸に今も
なお鮮やかに生きています。一たび相
会すれば、たちどころに青春の日に
帰る。事実われわれの心には、青年
のはげしい情熱がいまだに炎々と燃

えているのかもしれない。

この回想録は、永く朽ちないわれ
われの友情の表現であり、緑丘時代
への思慕の記録である。

この巻を開くたびに、われわれに
夢多く理想にあふれていた緑丘時代
の数々の思い出がこんこんと湧き、
恩師、旧友のだれかれの面影が走馬
燈のごとく浮び、その声音がはつき
り聞えてくるはずである。

さらに、あながきの中にも、私は
こんなふうに書きました。

「(略)文章を通して書いた人をし
みじみと心に思い浮かべ、懐旧の情を
新たにすること、卒業アルバムと対
照して四十年の歳月による変貌をう
かがうこと―この回想録は、見る
もの読むものの心に、きつと色々な
感慨を与えてくれることと思いま
す。

たとえ不完全なものにしろ、これ
を作つてよかつたという感懐は、お
そらく全部の諸兄が抱いてくださる
に相違ないと信じています。

お互に命まききくば、満五十周年
にもめぐりあえると思えます。この
上にも切に御愛ください。
この回想録が、つねに諸兄の座右
や机辺に置かれ、若き日をしのぶこ
よないよすがになることを心から祈
っています」

7 自分が編集委員の一人であつたた
めの愛着もあるからでしょう。私は
「緑丘追想」をいつも机辺に置き、
これまで幾たび取りだして読み返し
たかわかりません。

8 私が「はしがき」と「あながき」
に書いた心持は、今なお少しも変つ

楽我記

ておりません。そしてこの回想録を作っておいてよかつたという思いが年を経るに従って一層切実に感じられております。

ことは大正六年から数えて満四十七年、私もこの七月の下旬には満六十七才になります。

もう三年、昭和四十二年三月には私たちがあの地獄坂の丘の上の学窓を巣立つてから満五十年になりました。その時には私でさえ古稀を過ぎておりますから、級友ごとごとく七十の坂を越えていることになりなす。

「緑丘追想」を刊行してから亡くなった同期生は、私の知るかぎりでは五名あります。「緑丘追想」に原稿と写真を寄せた級友は三十四名でした。その中ですでに故人になったのは、伊東小四郎、松井実、村沢弥三兵衛の三君です。

うち、松井実君は、昨年九月二十一日肝臓癌で逝去しました。

村沢弥三兵衛君は、同年十二月六月急性脳出血で突然歿しました。

松井、村沢両君とも、数年前からは隔月に開いている大六会のいわば常連で、いつも萬障繰りあわせて顔を出す人たちだったのです。

ことに村沢君の急死は、時が時、事情が事情だっただけに、全く茫然としてしまいました。

江口信一君が当番幹事で、昨年十二月六日正午から東京有楽町の富士アイスで大六会の例会を開いたので、めずらしく昼の会でしたが、足場もよく都合もつけやすかつたのかわりに集りがよく十五名の出席でした。

た。後で判明したが撰文は元小樽商業(現緑陵高校)の漢文の先生だった一戸隆次郎氏のもので、裏面には大正三年九月廿二日建之・量徳尋常高等小学校々友会・石工竹内金五郎刻と三行がきざまれてあった。

帰途大正三年といえは第一期生の故飯川文三先輩が卒業の年次でもあり、卒業後のことであつては同氏等も渡辺校長の頼末等御存知であつたらうかどうかを思い廻らすなどして家に戻つた。

この稿を投稿しようとして碑文を書きとめておいたのだが、そのうちに暮れ近くになり、年も越してしまつた。たまたま私の小樽中学校時代の恩師であり、母校第一期生の故榎健八郎氏の令兄榎俊三郎先生にこの碑石のことをお尋ねする機会をその後になつて持つに及んで、住吉校長を偲ぶ一文を同先生より頂戴したのでここに掲載、御紹介をしたいと思います。

た。滝沢金三君は、その席での最年長の七十二才です。ゴルフ歴が長く、今でも週四回はリンクでクラブを振っている由で、いつになく雄弁になつて滝沢式の健康法とも言うべきものを一席ぶちました。感心して耳を傾けているもの、質問するもの、反論をするものなどもあつて、にぎやかでなごやかな会合でした。

私の丁度前に村沢君が座つていました。その日から四日あとの十二月十日には、私たち大正六年卒が当番幹事になつて東京の緑丘十日会を開く予定になつていました。

村沢君は非常に世話好きでまめに働らく重宝な男でした。同窓会東京支部や十日会のために、骨身を惜しまず熱心に尽くしてました。そしてその月の十日会の計画と準備を、われわれ無精者に代つて、自ら進んで買つて出て全部ひとりで行つてくれたのです。席上、その会のことなどいろいろ私に話して、別段愛つたところが見うけられませんでした。

その日村沢君は、午後二時に会社で人に会う約束をしているからお先きに、と言つて席を立ちました。それをしおに、みなも一せいに立ち上つて散会いたしました。

ところがそれから三時間後の午後五時十分、村沢君は急に亡くなりました。来客と対談中にわかに気分が悪くなり、手当のひまもなく絶命してしまつたのです。

その六日の大六会例会に出席し、村沢君と会い話した私たち九四名にははまるで夢のようなもので、到底信じられないほど衝撃的な悲報でした。私はこの時ほど人生の無常迅速を身に徹して感じたことはありません。

まだはつきり大六会として決めていることではありませんが、三年後の昭和四十二年の私たちの卒業五十周年には、できたなら「続・緑丘追想」を、もつと簡素な形のものでもよいから、ぜひ編んでおきたいと少くとも私は考えています。

半世紀にわたる人生のあらゆる風雪に堪えぬき、すこやかに生きぬいて、緑丘卒業満五十年を迎えられることは、大きな喜びであり、記念するに十分値するねらちのあることと信じています。

幸いに、五味、橋本両君や私が元気でいたら、乗りかかつた船のようなものですから、もう一度回想録をまとめる役目を引き受けてもいいと思つています。

今生きている同期生が全部その時まで健在で、しかもそろつて稿を寄せてくれたら、とてもすばらしいしそんなうれしいことはない、私は希望をもつて祈つています。

それにしても、満三年あまり気管支ぜんそくになやみ、烈しい呼吸困難の発作に苦しみ、百方医療の手を尽しても未だに治らぬ私が、一日も早く回復しなければなりません。今の状態では、いくら心に思つても実行委員になることができません。

た例がいくつもあると思ひます。この種のくわだてを実行した期の方々は、こういふ記念の仕事の意味と価値がよくおわかりのはずです。

たとえば緑丘卒業後二十年以上の期の方々に、まだやつていない向きがありましたら、何かの機会に、こういう記念のくわだてを計画されるようおすすめてみます。

まず第一によき時をつかむことが必要です。次に適当な実行委員を得ることが肝心です。一見やさしいようにみえて案外むずかしく手のかかる仕事ですから、単数または複数の適任者を得なければなりません。

しかし一旦完成したらその喜びは同期生にとつてたしかに大きくかつ長いと信じています。

回想録なりアルバムを見ていると、旧友一人一人の面影が心に描きだされます。歳月の経過によって消し去られない心と人柄のあることがわかります。

そして胸の中に、友情が新しくよみがえり、母校、恩師を慕い同窓をなつかしむ念が、さらに深まることはたしかです。

まだこんなくわだてを実行してない期の方々に、この試みの結果から生れる喜びをぜひ味つていただきたいと思ひ、第四回生の小さな一つの経験を記してみました。

(昭和三九・四・二)



楽我記

聖ヶ丘の碑石

— 散策余談 —

越崎 清二 (昭二一)

昨年(昭和三十八年)の初秋、九月十日頃のことであつた。朝の散策に学生時代スキー場であつた聖ヶ丘方面へぶらりと出かけて草の生い茂つた高台から天上寺裏手の笹藪に下りかけた処、草の繁みの中に一基の碑石のようなものが散見された。あまり人の通ることもないこんな箇所といふかりながら立ち入つて見ると笹藪の中に地ならしをした十坪あまりのスペースの中に「正五位勳四等渡辺龍聖篆額」と刻まれた元量徳小学校の校長とつたわれた住吉貞之進氏の碑であつた。漸く港から昇つた夏の朝の陽をあたたかに背に受けたながら、しばし佇んで碑文を眺め

た。後で判明したが撰文は元小樽商業(現緑陵高校)の漢文の先生だった一戸隆次郎氏のもので、裏面には大正三年九月廿二日建之・量徳尋常高等小学校々友会・石工竹内金五郎刻と三行がきざまれてあった。

帰途大正三年といえは第一期生の故飯川文三先輩が卒業の年次でもあり、卒業後のことであつては同氏等も渡辺校長の頼末等御存知であつたらうかどうかを思い廻らすなどして家に戻つた。

この稿を投稿しようとして碑文を書きとめておいたのだが、そのうちに暮れ近くになり、年も越してしまつた。たまたま私の小樽中学校時代の恩師であり、母校第一期生の故榎健八郎氏の令兄榎俊三郎先生にこの碑石のことをお尋ねする機会をその後になつて持つに及んで、住吉校長を偲ぶ一文を同先生より頂戴したのでここに掲載、御紹介をしたいと思います。

「住吉校長は会津藩士で年少の頃白虎隊の一人として共に戦つたが未だ少年だつたので討ち死した人々から除かれたのだときかされていた。当時の高等一年の頃と思つた一度私はよばれておそるおそる校長室に入つて面接したことがあつた。私はごくおとなしい目立た

住吉校長之碑

正五位勳四等 渡辺龍聖篆額

先生姓住吉通称貞之進父曰貞次郎旧会津藩士也幼入藩学日新館修和漢学明治八年学新潟県師範畢業卒業後奉職埼玉県師範福島県師範費教諭爾後歴任同県及巖手県小菅小菅小学校長等明治卅年遷干北海道片地方視学翌年八月兼小樽教育副会長区学務委員大正二年十二月廿二日以病歿享年六十有二先生学人至誠恪勤在職前後四十有一年未嘗一日曠其職吏文部大臣遷獎厥功績北海道庁長官及帝國教育会長亦旌賞焉其歿也門人故旧哀悼不能措相謀建碑於天上寺境内以頌其德云

校外 一戸隆次郎撰揮書

の校長が個々の生徒の行状の変化に異常な関心を持つて直ぐに善導の間接な方策を採るやり方に感服し尊敬の念を一層深めた。

中学に進んでから校長の長男の貞勝君と同級になつたので友人となつたが、明るい、頭の特に良い人で庭球の選手もやつたが、卒業の時は一審で、直ちに東京高等商業今の一橋大学に入学し卒えて住友に入り後で住友の重役となつたが、余程前に故人になられた。

われわれは校長から学課の授業を受ける機会がなかつたが、寛厚で潤滑な風格の中に武士的なところも見えて、誰れも敬愛された珍しい校長であつたと信じている。

(本文筆者は小樽市銭函町桂岡在住元小樽中学教諭)

楽我記



「住吉校長は会津藩士で年少の頃白虎隊の一人として共に戦つたが未だ少年だつたので討ち死した人々から除かれたのだときかされていた。当時の高等一年の頃と思つた一度私はよばれておそるおそる校長室に入つて面接したことがあつた。私はごくおとなしい目立た

ない少年だつたが、夜行動物みたいに夕飯を食べてから急に活気が出てきて夕闇の中に飛び出して善い少年とも悪童ともいろいろな少年と遊んで校外での行動は二重人格的な趣があつたので今日は相当叱られるものと覚悟して不安な気持ちで校長の面前になつた。

ところが住吉校長の話は案外で一つ上級生で交遊関係がわるくて不良化しそつた生徒と交遊して欲しいという頼みであつた。それまで遊んだこともなく七、八町も離れた処に居たのだが校長の頼みなので引受けて時々遊ぶことにした。その生徒は自戒自重したので自らよくなつた。私は今でも何故一級下の学業も性行も凡庸な生徒の私を選んだのか不思議に思つているが、大きい学校

EECの見方



大庭定男
(昭一七 三井物産株)

くるのは当然ではないだろうかと思える。

例えば、ドイツ人の祖先のゲルマンは北欧の森の中に何万年も暮らしていた狩猟民族である。厳しい北国の森の中で、各々の部族が勢力範囲を定め、統制ある生活をしてきたのがやがては、ギルドの世界となり、あるいはハンザ同盟を生み出し、更に近代工業の勃興と共にカルテルを生みだした。これらの本質をなすものが、自分の縄張を守り、利益と権利をトントンまで擁護すると同時にこれと血液や利害関係を同じくしない者は排斥するということである。帝政ドイツの頃の黄禍論やナチスのユダヤ人排斥、オランダ人の移民の子孫たちが南アフリカで行なっている黒人との人種差別、イギリス社会の階級制度など、そのいずれをとってみてもこのことは立証できると思

東アジアのモンソーン地帯で、一視同仁の仏教や儒教の教えに育ててきた東洋人には理解が難しいものがあり、これが共通農業政策や共通通商政策に、あるいは経済同盟そのものに微妙な影を投げかけることをわれわれは充分理解すべきである。

人にはもう少し高度の国際情勢に対する認識と的確な判断を望まざるを得ない。

二、EECをどう理解するか

去る六月五日、EEC委員会は第七次の年次報告を発表した。新聞で報道された要旨では、一九五八年に発足以来初めて深刻な経済的困難に直面しており、ドイツが安定成長しているのに対し、フランス、イタリア、オランダでは強いインフレ圧力があるというごく、域内でひどい不均衡がある。これを打開するため、EECベースで定められたインフレ対策などを確実に実施することや、さらに精力的な対策が続いてとられないなら、今年の経済状況は悪化しようとのべられている。

確かに、委員会が指摘したような事実はまぎれもないが、その他の部分では域内貿易が著実に増加していること、独占禁止政策が動き出し、肥料、医薬品、精密機械等々の分野でのカルテルが調査されていること。欧州投資銀行の融資件数、金額とも過去の最高となったこと、共通農業政策に大きな進展が見られたこと等々、多くの部門での輝かしい発展を

一、EECは下火か?

最近ある財界のおえら方の集りてこんな会話がとりかわされた。「EECは最近どうも下火のようでは、どうももうまく行っていないよ」

EECが丁度二年前に熱病のように日本の多くのところで語られた当時と比べれば確かに新聞にもあまりのらないし、政府もEEC対策というようなことをあまり言わなくなつた。その限りでは確かにEECはあまりパツとしたニュースでなくなつたかも知れない。しかしながら、EECそのものは決して下火でもなければ、うまく行っていないのでもなく確実なペースで経済同盟への途を進んでおり、その重要性は二年前の「EECブーム」の頃と比べて決して落ちてはいない。否、むしろその重要性は益々大きくなりつつある。これは現在ジュネーブで行なわれている関税一括引下げ会議に参加された外務省の高官もEECの力が大きくなって、一括引下げ会議でもEECの交渉が焦点となつてい

へもうされていたし、この問題について米国のCED(経済発展委員会。有力な財界人を以て構成され、日本の経済同友会と友好関係にある)の最近の発表によつてもEECとの関係の重要性を繰り返し力説している。

このように重要な事実を、少し新聞に出るのが少なくなつたからといつて下火だとか、うまく行っていないといふように思うのは、ムードや流行に流され、EECやヨーロッパ経済の本当の流れを見つめてゆくという心掛にかけるからではないかと思ふ。一般の人々にこんなことを望んでも無理であるが、少なくとも日本経済をリードする立場にある財界

(異動つづき)
佐々木八郎(昭八)
酒田市住吉台一四の一七
牧野正治(昭一一)
豊中市浜四三六番地
柴田静一(昭一九)
市川市須和田二ノ二〇七三
小柴嘉雄(昭七)
小樽市富岡町三ノ三〇
松浦文太郎(大七)
豊中市末広町一丁目三番一九
日下一郎(昭八)
横浜市保土ヶ谷区川島町七三四
永井伊助(大三)
東京都文京区表町一〇九 山口方
佐藤良司(昭八)
小樽市色内町四の六
大塚守之(昭一六)
小樽市花園町西四の五七青葉ヶ丘
神沢重治(大一一)
富山県砺波市本町二ノ一七

石黒政夫(昭一四)
東京都大田区馬込西四ノ四一
杉本敏雄(昭一〇)
高槻市野見町九五六

社名変更

山内孝(昭一六後)
東洋建設株式会社(阪神築港株式会社)
近藤一郎(昭一五)
佐々木俊英(昭三五)
楠崎産業株式会社(大阪海運営業所)
大阪市西区南安治川通り一〇一
電話(五三一)一五三一・五八六六

事務所移転

岡田春夫(昭一一)
東京都千代田区永田町家議院第一
会館二二二二号室



日立商品特約店

日本電気機器株式会社

取締役社長 天野雅司(大正15年)

本社 サクラバシ日立シヨーストール

大阪市北区曾根崎新地2丁目50番地

電話大阪(361)8871番(代表)

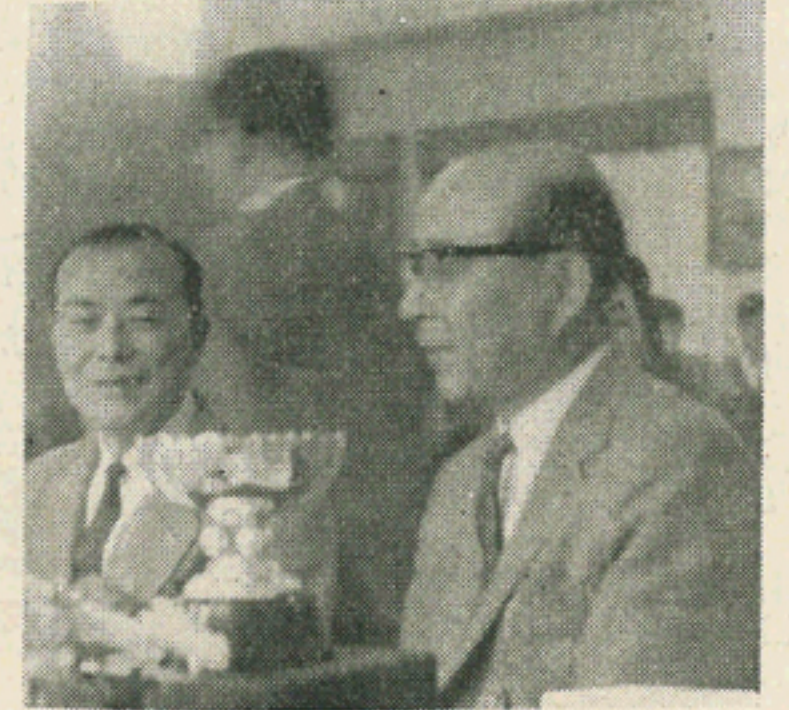
大阪(361)4602番(夜間専用)

緑丘 余話

進藤杯を競う

札幌緑丘人ゴルフ大会

佐々木理事長を迎えて



進藤杯を前に波方氏

当日のスコア次の通り。

(小樽・山本記)



		グロス	ハンデ	ネット
優勝	波方	84	19	75
1	池田	114	26	78
2	奥野	118	30	78
3	植田	104	25	79
4	佐々木	100	19	81
5	岩崎	100	17	83

緑丘通信

ホールイン・ワン

大正八年卒加藤三氏は某ゴルフ場に於てホールイン、ワンを打ち込んだ。正八会四十五周年を記念しての大会にはその発表があった。数多い緑丘ゴルフの中で加藤三氏を以て嚆矢とする？若し他にお聞き及びの方は編集部へ御連絡下さい。紙上発表をしたいものです。

★多喜二の碑

建設本決まり 小樽旭展望台に プロレタリア作家、小林多喜二の文学記念碑を彼の育った小樽に建設する計画が本決まりとなり、五月十四日夜小樽市労働会館で開かれた「多喜二をしのぶ会」で用地や設計が発表された。

多喜二の記念碑をつくらうという声は数年前から友人など関係者の間に高まったが、ことし三月、小樽地区労務員、浜林正夫商大教授らが呼びかけ、安達小樽市長、加茂商大理事長を代表とした建設期成会がスタート、本格的な準備を進めていた。

この日発表された計画では、碑の設計者は本道出身の彫刻家、本郷新氏。幅八呎のコンクリート台に高さ二・二五呎のコンクリート壁をすえ、黒ミカゲ石に刻んだ碑文とプロンズ像をはめこむ。用地は多喜二がこよなく愛した小樽のまち並みと海が一望に見渡せる小樽市旭展望台。期成会は来年のメーデーに除幕式を開こうと碑文の選定を急ぎ、近く



本格的な募金運動をはじめ、発起人には作家の志賀直哉、伊藤整、評論家の亀井勝一郎氏らが名をつらねており、目標の四百万円は確保できると見通し。すでに東京、京都、会津若松などにも建設協力会などができています。(北海道新聞所載)

★玉井武(大一一)―米国ミシガン大学のセミナーに参加のため八週間の予定で去る六月二日横浜を出帆した。

★六月七日札幌市大通公園で行なわれた対北大定期戦の応援対面式風景が北海道新聞一頁に。小樽はチヂレ毛、北大は長髪、ほこりとアセにまみれた羽織、はかま、ほう歯の高下駄で群がった市民たちを驚ろかせた。女装の彼は自前の髪だといふ。なよなよした身のこなし、きれいにセットして金粉をふりかけていた。(中央下段)

北条恒一氏(昭14)

納税者の弱い立場を守る…コサルタント



節税作戦要務令

べストセラーを狙う

北条恒一氏は税理士計理士として(特に納税関係のコサルタント)東京都で活躍している昭一四の緑丘人である。今回納税者の味方として、いかにすれば税金は軽くできるかという問題について、コサルタントの立場から指導してきた経験がこの著書「とらわれるばかりが能じやない」にまとめて出版された。もう発売されて一月、初版は売れ切れて再版に入ったとも言われる。北条氏ベストセラーを狙う。内容の一部を披露すると

めくら判を押すべからず 税理士に気を付ける 銀行も安全でない 出さなくとも出たこと出来る 法人税計算の道しるべ 金の卵を生む鶏を殺すなかれ 徴税の仕組みは年々変わる 異議申立はやるだけやっただがトク

彼北条氏は納税者諸君よ勇気を持ってと次のように語る。

税法についての知識に明るくないと、税務署に一方的に押されがちである。気の弱い国民のなかには、税務官吏のいうことなら何でも「ご無理ごもつとも」と、つい言いなりになる人も多い。正当な評価にもとづいて課税ならともかく、納めなくともよい税金を納める必要は少しもない。もともと納税者は国家にたいするスポンサーなのだし、税務官吏は国民の奉仕を義務とする公僕である。私が、この本を世に出そうと思いたった目的は、実は、この極めて当然のことがらを徹底的に税務官吏をはじめ納税者の皆さんに自覚してもらいたいと思つたからである。もちろん、この企てについていろいろ心配してくださる人も多かった。その第一は、私が税務署からならまればしないかということである。もつともだと私は思つた。この本に

は何人かの税務官吏―全国税務職員のうちの方分の一か二の人数だが―は現職として活動しているし、私自身、税理士という職業柄彼等と会う機会も少なくない。そんなとき彼等に反撃されるのではないかと、う有難い心づかいからである。しかし、それを心配して臭いものに蓋をしつばなしで終つたら、どうなることだろうか。誰かズバリとやることも正義として必要な務めではなからうか。私は全国の納税者が満身の勇気をもって適正な税金を納め、無駄で過剰な納税はしないようにしてもらいたい。私自身が勇気をふるいたたせて執筆に励んだわけである。

私の父の叔父に、北条時敬という明治から大正にかけて、ちよつと名の通つた教育者がいた。彼が、昔、第四高等学校(現・国立金沢大学)の校長をしていたとき、当時の総理大臣伊藤博文が視察にきた。知事と市長とか土地の名士は競つて御機嫌うかがいにまかり出たものだが、彼は厳然としてそれを拒否した。そうである。教育は政治の支配を受けるものではないという信念がそうさせたのだ。私はこの話を父から聞き、今もこの逸話を時につれては反響している。そして筋の通る税務行政の在り方を生涯追究していきたいと念じている。

なお、本書の内容はふとした機会から、全国中小企業団体中央会の機関紙に昭和三十七年、昭和三十八年一二月まで連載されたものであり、それに最近(昭和三十九年四月一日施行)の改正税法にもなる事項を挿入して、まとめあげたものである。

耐酸・耐蝕・鉛加工・鉛工事一般

日本滲鉛工業株式会社

社長 大久保鹿式 (大正12年卒)

大阪市東淀川区木川西ノ町六丁目五

電話 三国 (392) 1 1 5 1 (代表)

まんびつ五人集

次回

- 白木 小一 (大一一)
- 齋藤 文一 (大八)
- 尾崎 不二人 (昭一四)
- 堂城 啓作 (昭一一)
- 小林

自由と言ふこと

竹内 隆

(東京支部)



「オリンピックの合言葉にならぬ、もろもろの準備がすすめられてゐる。そして、どうやらそのための涙ぐましい努力が報いられて、競技施設、道路、ホテルなどの造営物については、一応の目鼻がつくようになったことは、まことに御同慶の至りと悦びたい。しかしながら、どうしてもオリンピックまでには間に合ひそうもないことは、国民の公徳心の高揚であり、自由と言ふことに対する国民の正しい理解である。

日本人の自由は、自らの手によつてかち得たものではなくて、投げ与えられた自由である。それだからこそ、自由と言ふことが正しく理解されず、大部分の人々は自分勝手に行動することが自由だと思つてゐるのだ、という人がいる。たしかにそうかも知れない。しかし、それほど簡単に割切つてもいいものだろうか？ 道ゆく人から金銭を恵まれる乞食の

ように、そのような与えられかたであつたと私は思いたくない。われわれは、「戦争」という比喩のものな

い程大きな犠牲によつて、かちえたこの自由を、もつともつと大切に育ててゆかなければならないと思う。

私は、自由と言ふことの正しい意味は、他人の自由を尊重することに在るのだ、と思つてゐる。静かな安らぎのひとときを欲する人の多い深夜に、騒がしくラジオをかけることが許されないことは誰でもが知つてゐる。散歩する人の目を楽しませてくれる公園の花を折つてはならぬことも知つてゐる。しかし残念なことには、現実にはわれわれの周辺では、それ以上のことが、極めて平然と日常茶飯事のように行なわれてゐる。

私たちが海外を旅行してみると、欧米のような先進国はもちろんのことラテンアメリカ諸国のような、むしろ後進国といわれる国々に於てさえも、市民の一人々々が、正しい自由主義を身につけ、自らのペースで生活や仕事を楽しんでいるのを見て羨ましく思い、また恥かしく思つたりすることが屢々である。

他人の自由を尊重する、そして自分の自由も侵されない。すべての人が安心して、他人のことは気にせず

に、自らの正しいと思う道を歩む。そこにおのづから正しい秩序と倫理が生れて来る。

最近わが国においても、公徳心の高揚に対する呼びかけが盛り上がりつつある。結構なことだと思ふ。社会成員の各々が、それぞれの生活の場において、高いモラルと、正しい秩序を持つように生長し、賃銀水準と同じように、西欧並みになることを希念してやまない。

と同時に、個人生活と同様、企業活動に於ても、同じような正しい意味の自由を享受してゆくことはできないものだろうか？ 子供の野球場を大人たちが占領してしまふような、文字通り大人気ない仕業が、産業界では、極めて当然のことのように行なわれてゐるが、それを誰も不審に思わない。高い技術と不断の努力によつて極めて健全な発展を続けている企業を、資金力に物をいわせて買収する大企業を非難する者もないし、数すくない同業者によつてほどほどの利益を享受している平和な業界へ高価な外国技術を買つて殴り込みをかける巨大産業を支援する政府を批判する者もない。非情、惨忍、これこそ自由主義経済のエスプリである、といわれてしまえばそれまで

であるが、私には、まだわが国の自由主義は、あらゆる面でまだまだ未消化の状態にあるように思われてならない。次回は白木小一郎さんをお願いいたします。(大一一 東海電極株式会社)

我等ミナ

若クアリシガ

大山 謙吉

(東京支部)



私共大正八年に学校を出た者は今年が丁度四十五年目に当たるので「馬齢を加えた喜びと感謝の会」をこの五月末に東京でやる。卒業の時は百二十人位だったが現存する者約六十名。その半分の三十名が出席の予定で北は北海道から西は大坂から集つてくる。東京には三十名チヨット住んでおるので、これは二カ月に一度づつ飯を食う会をやつておる。大低十五名位集まる。この四十五周年記念会を世話して驚いたことはクラスの一人が七十八才にもなつていたということである。学校時代

トリワケ年とつた男が二人おると知つてはいたが(一人は早く死んだ)七十八とは驚いた。早速皆で、この長寿にアヤカロウというわけで「喜の字」の祝いを贈呈して大変喜んで見直してみたらここ二、三年で皆が七十になるというのを発見した。

昨今は寿命の平均年齢が延びて七十才といつても少しもピンと来なくなつたが、「人生七十古来稀ナリ」やはり一応の峠である。一寸峠茶屋で一服してもオカシくない頃合である。私の所属してゐるゴルフクラブでは会員が七十になるとクラブから赤い毛糸のチヨットとゴルフ帽を贈る慣習になつてゐる。贈られた人はその日から敬老会の会員となる訳だが、コースの中でこの赤チヨットが嬉々としてクラブを振つてるサマは洵に微笑ましい。またメンバーがこの赤チヨットを尊敬とイトホシミを以て迎える風景はまことに美しい。これらを思い合せて私共と、その年に七十になる男にその年の正月の会で皆から赤チヨットを贈り祝福することに決め、とりあえずその第一回をこの五月の会でやることにした。三年位たつと全員がこの赤チヨットをもらうことになる筈だからその時は全員これを着て小樽に集まつて、まず母校校庭とタカハシビヤホール(有りや無しや)前で一踊りして妙見河畔をネリ歩く予定である。

さて、私だが、七十才を目前にして「汝老ヒタリヤ」と問われると、

そうも感じないと答えるのだが、ただ次の二ツのことだけはどうも老化現象と認めざるを得ないようである。一ツは如何にもセッカチになつたことである。短気とも違ひソソッカシサとも違ふ。いなれば、ズバリソノモノからズバリソノモノへの焦燥である。ウワベとか虚飾とか外交とか遠慮とかさういつたものがスゴク嫌になりウトマシクなつたことである。ホンモノとニセモノに對しての反応が鋭くなつてニセモノとは口をきくのも嫌やになつてきた。もう一つは大変涙モロクなつてきたことである。市井の一瑣事なのに、一寸した善意がスゴク涙腺を刺戟する。

として落付いてすべてを受取ると思つておる次第。藤居君からバトンを受継いだ時は遙かに緑丘三年の生活を想起し「恩師に巡り会わざりしの弁」を論じ、併せて恩友齋藤君丈一君に深甚の敬意と謝意を表するの文を綴つたのだが、想未大成らざるに締切日がきたのでアワテて、この駄文を草したわけだが、恩友齋藤君幸いに健在にして、このバトンを引継いでくれれば有難い。(大八 日東証券相談役)

身辺雑記

櫻村 久好

(東京支部)



同郷の士・福地貞雄君より「緑丘」に一筆という指命を受け日ならずして編集部より本誌の寄贈をうけました。兼々大阪在住の諸兄の間にかかる企画のある事をきいておりましたが、実際に手にして大変立派な編集振りに驚嘆致しました。

回顧二十五年——在樽三カ年人生の創世紀ともいふべき青年時代に愉快な学園生活を送らせて頂いた事を常に感謝致しております。諸先生の名講義は既に書き尽し、語り尽されておりますので、いまさら、小生などが記すすべもありませんが、地方中学出身者にとつては非常な刺戟でした。もちろん講義内容は

は忘れ去つてしまいましたが、懐かしき風貌と共に温き心の糧として、いまでも胸中深く蔵されております。中学時代にテニスをやつて居つたので初めて海峽を渡つた時、何の気なしにリュックの中にラケットを一本入れて居つたのが縁となり、一寮先輩の斎藤進氏に入室をすゝめられ爾來三年文字通り雪の日も雨の日も練習練習と日の落ちるも忘れ、白球を追つたのを忘れません。予科戦、インターハイなど若き日の思出です。

いまは多忙にまぎれ、テニスどころのさわぎではありませんが時折テニス姿の若い人を見ますと自分の分身のように思われてなりません。現在のところ——地方都市としては恐らく日本で一番ひどい戦災をうけた日立市に生れ育ち、四十有余年をすごしております。日本一を誇る日立製作所を中心とした工場都市にて戦前四万の人口が、現在十八万になんなんと居り、昭和四十五年には三十万をこえるであろうといわれております。ここからは、また有名な東海村原子力研究所へは約四キロの里程にあります。人口比当りの交通事故は、これまた日本一とか、とも角も非常に活気に溢れておる都市です。

卒業と同時に日立製作所に入社し昭和二十九年に「鶏口」となるも牛後となる勿れ」を実践して見ようと夢を画き、独立して見ました。小さな機械工具販売店を経営しておりますが、御多分に洩れず不足、金不

想い出と近況

友沢 和一郎 (広島支部)



足にて難渋しております。緑丘出身者とは仕事面でも連けい出来ましたら、此程愉快な事はないと思っております。

将来の夢——当面いまの仕事は大すること、製作方面に進出したいこと、出来れば緑丘出身者を年々一人でも収容出来るような規模にしたものだなあと考えております。

当地に超マンモス企業と、それをめぐる中小企業との格差が非常に大きく、かつて文芸春秋誌上にも掲載されたように徳川時代の城下町の如き感があります。表面華やかなうちにも若干の問題点をもっているように思われます。この分析・実践的解決をライブ・ワークとしてやって見たいと思っております。

希望——北関東の一隅におりますと中央とも離れ勝ちになり、恩師・諸先輩・同志とも連絡がとれず、一匹狼の状態です。徒らに過去の感傷のみが同窓のエニシではないので将来の前進の礎石となるよう、縦横の連絡を充分にとりたいたいものと考えております。

Parting is such a sweet sorrow to say good night till to-morrow morning.

二人が、楽しいあひびきの一時を過ぎて、別れる時の言葉だが、これを先生は、次のように言われたと思う。別れると云って、あすの朝まで、お休みなさいと、いつて別れるだけのことで、あまり悲しみではないか。と云って、日本文に訳すとまことに味われないが、この文章は実に名文ですよ。といった意味のことを言はれた。

ISHIDO MARU

上野 茂 (大阪支部)



角谷君が東京へ行つて、ゴルフのチャンスが一寸遠のいた。それにつけても彼が病気になるのは全く驚いた。われわれも伴が大学を

出るようになった事を考えると成るほど年をとったものだと思ふ。お互に身体に注意しなければならぬ。しかし、この「緑丘」を続ける目君の馬力には驚いた。度々「緑丘」誌代の催促を受けるが、ぼくばかりでないらしい。何時も申訳けないと思つている。あれだけのものを仕上げる努力には頭の下がる思いがある。一層の事五〇〇円といわず、二年分五千円位にしたらどうかね。

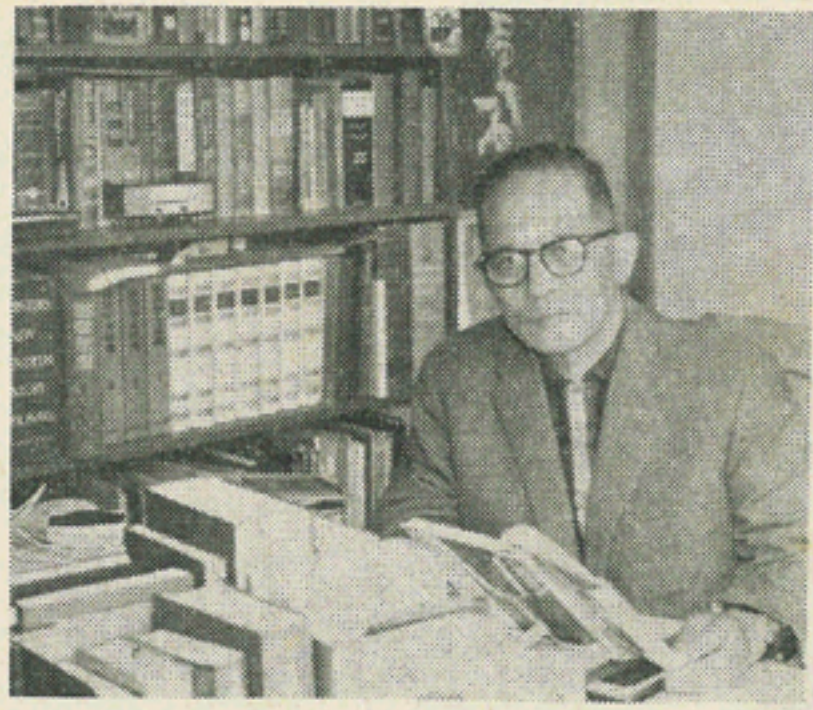
君の家のなかも大変なことだと思ふ。原稿や参考資料で机の上は山になつて居るだろう。家が狭くて困るというが、ぼくはゴルフをやるから家のなかに占めるスペースは極く少なくて済む。君の場合は絵を描いたり緑丘の世話をやるのだから君の家を狭めてやるのは親爺のせいだと思ふ。しかし、やはりわれわれは身体が大切だ。われわれサラリーマンの財産は身体だけだ。「緑丘」を続けて貰い度いが、無理をせず、好きな絵を描いて、長生きしてくれ。

学生時代の懐い出をこの機会に一つ話そう。二年の時だったと思う。I君がニツチクの路地を入つた所で警察の臨検に会つた話だが、「おいッお前の職業は何んだ」と問はれておっおっ「船員です」「船員？何丸だ」というと、すかさず「ハイISHIDO MARUです」トンチのよいI君であつたと思ふ。合併教室へ肩を振りながら運刻して入つて来るI君の姿がいまでも目に浮ぶ。

次回は小林啓作さんたのみです。(昭一一 東洋紡原毛部長)

僕の書齋

菅谷 重平 (大9)



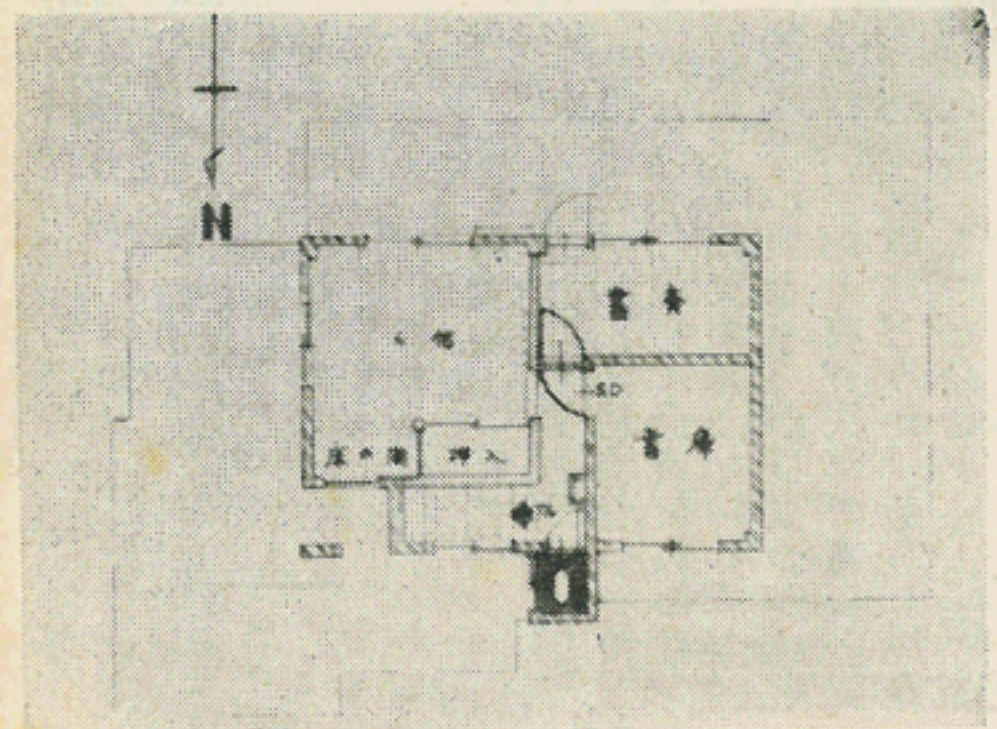
永い間の夢がようやく実現した。これまで本を買うことに追われて、本棚もお粗末なものであり、おまけに木造家屋のために、いくらネダを入れても、本の重みで敷居が傾くので、いつも女房から苦情をいわれ通してあつた。

蔵書は戦後一部を処分したが、そ

れでもまだ五千冊以上ある。私の住居は地下一階、地上二階で、二階を全部いわゆる書齋に使っている。

特長は書庫を別に仕切つたことと地下室にもう一部を格納して、当座に必要な書物と辞書類だけを約三百冊など、机の置いてある小部屋の中の棚に収めている。

この小部屋は、わたくしが読んだり、書いたり、整理をする仕事場なので、和洋のタイプライター、テープレコーダー、計算器、製本機、レコードプレーヤー、コピーマシン等の事務用小道具一切を棚に格納している。



私の自慢は本を積んでおかないで書棚へ納めているから、本を探すに時間をとらないことと、また手紙や講演の原稿の整理等もファイリングキヤビネットを使って整理しているので、とにかくものを探すに貴重な

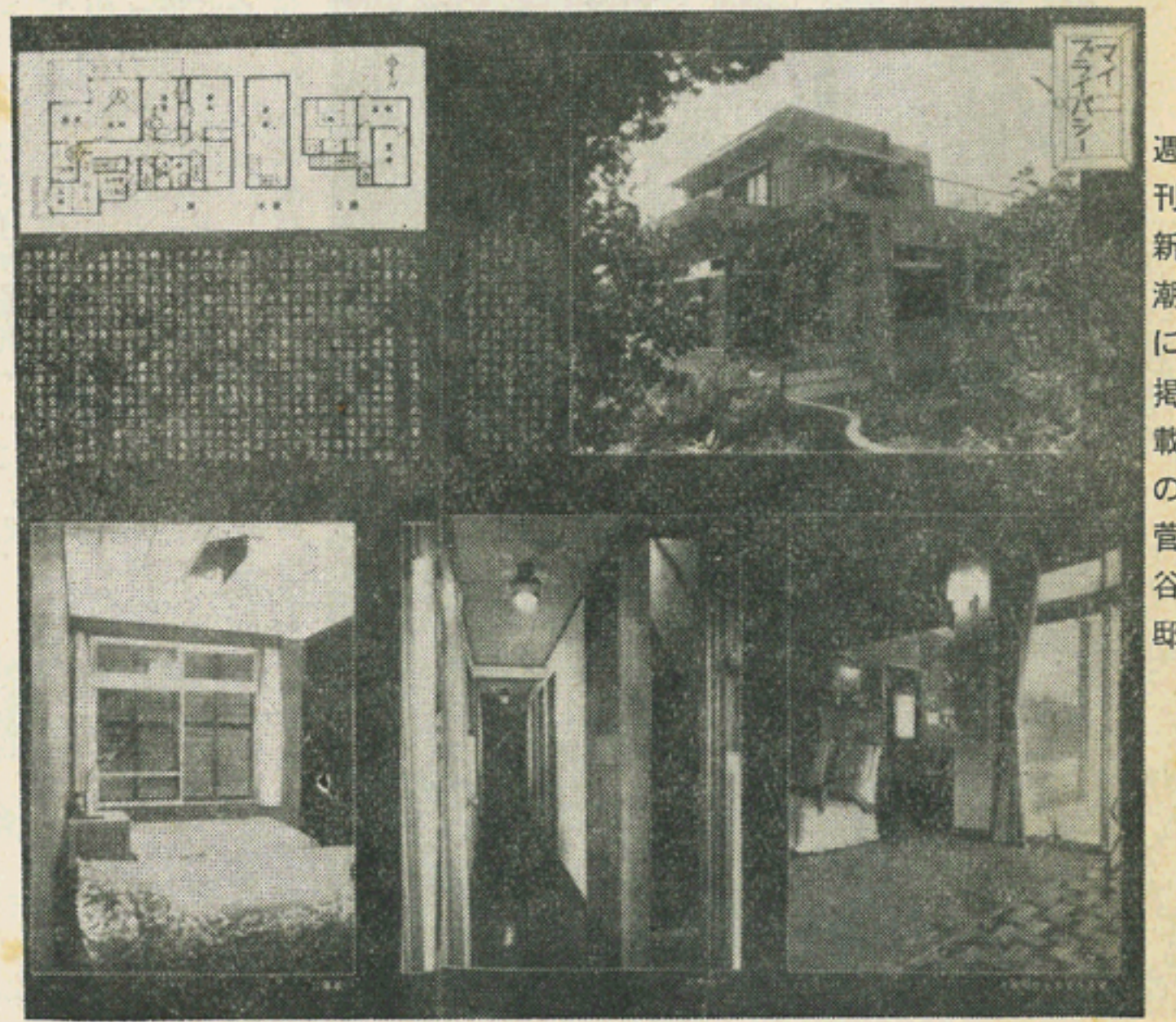
時間を使わないことである。

もうひとつ、わが家にタツタひと部屋日本間の六畳がある。畳の香りを保存しながら、雨でも降つて静かな日には、香でもたきながら、所蔵の軸物をかけて、明窓淨机の境地にひたつている部屋である。

洋式、和式のふたつの書齋をひとりで占めて、冷暖房をやっていることは贅沢なようにも考へるが、この年まで働きつづけたのだから当然であると思つている。

少し口はばつたいが、ビジネスマンの書齋としても、学者の書齋としても、広い東京でも数少ないものと思つている。

凶面の西の壁は塞がっているように画いてあるが、「富士の高嶺を軒場にぞ見る」ことができるので、西側に窓を切つてある。南は相模湾に臨んでいるので山と海にちなんで、「山海居」と名づけた。この書齋か



週刊新潮に掲載の菅谷邸

らわたくしの晩年の著作は相次で生れることであらう。

週刊新潮(六月八日)はこの企画を先にねらつた。再び先を越されぬ中に次回を予告しよう。次回は西野嘉一郎氏の書齋(六一五)です。

佐々木理事長提唱

「機関誌発刊」と「緑丘会発展」のための良きアイデアを求む

緑丘会第二十四回通常総会が札幌の産業会館で開催された。

その日札幌は晴れたり曇ったり天候であったが、午後から天気もよく、開会の午後六時には会場に夕陽が差し込んだ。地元札幌は勿論、遠く東京・大阪各支部よりも参加者あり、定刻には会場にあふれん計りの超満員となった。札幌会員の申込だけでも二百名を突破したという稀れに見る札幌会員の特にも多い集いで、世話人一同テンテ

コ舞いであった。

【札幌支部総会】

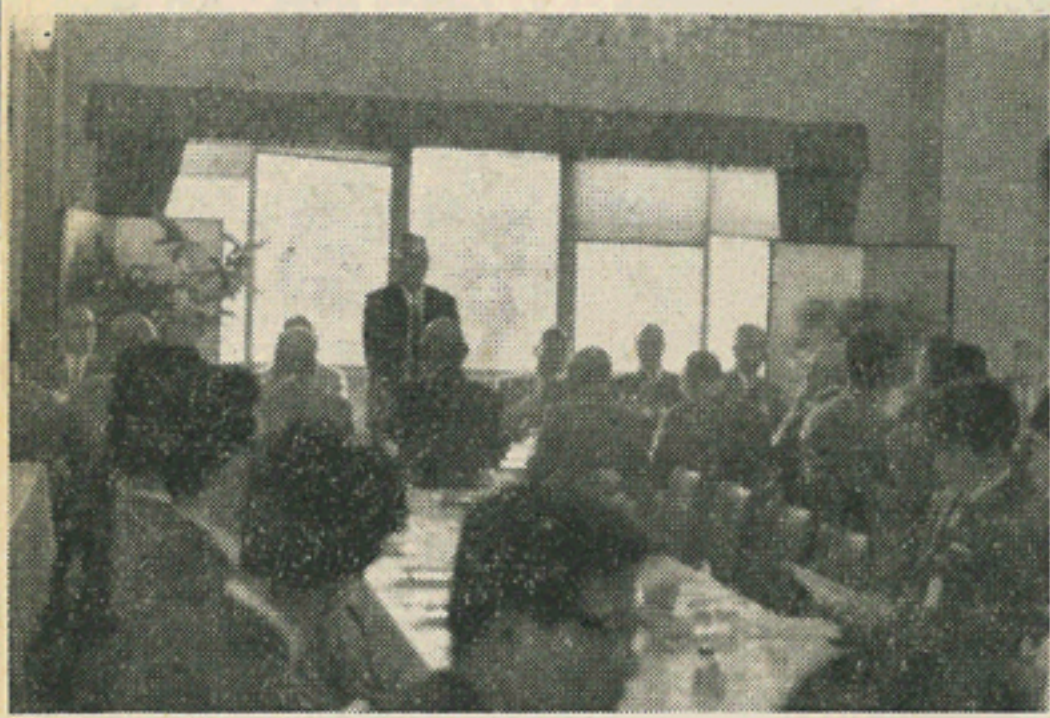
札幌支部長は富樫長吉氏(大四)総会の前に札幌支部総会を数分です挨拶し、会計報告、会費徴収の件を決定して札幌支部総会を終る。全国的に支部の資金不足が目立つが札幌は六万二千円の収支決算である。支部会合の回数はどうか。新しい企画をたて、もっと会合を持つ事が望ましいと感じた。札幌支部は会員一、四九〇名である。集合されなかつた会員に札幌支部はどんなP・Rをするのであろう。

【通常総会】

佐々木理事長立って挨拶、募金一億五千万円達成を発表、今年度は機関誌を発刊し度、若い人の緑丘会に対する意見を大いに採用し度いと二つの希望を発表された。次いで議長挨拶に続いて札幌緑丘ゴルフ大会の結果発表あり第一位波方清氏(昭四)に進藤杯が理事長より授与された。懇親会に入る。

墓目編集長にマイクのバトンをタッチ、「緑丘」の発刊と特集計画(札幌特集号、戦後学生特集号、小林多喜二特集号)を発表する。函館支部長林源太郎氏(大四)元大阪支部長)小林多喜二は好かんという(笑)日本水産在職中、蟹工船で悪宣伝をされて困った(特集記事になる)と。新人(昭和三十九年卒)の紹介に続いて、各年次代表も一言。段々と時間が切りつめられる。富樫札幌支部長は新人を富樫邸宅に迎えて歓迎パーティを開く旨宣言する。札幌支部はよき支部長を持つている。日もとつぷり暮れて札幌の初夏の宵にネオンが輝く。小樽商大歌、金鱗躍る渺々の……を唄い、万才三唱札幌総会、全国総会を閉じた。写真上から、佐々木理事長挨拶・加茂学長挨拶・東京支部小貫氏挨拶・万才

第24回 全国通常総会・札幌支部総会 スズラン香る札幌で開催 6月5日 午後6時



京都支部総会は

春雷?の

南禅寺「順正」で

5月13日

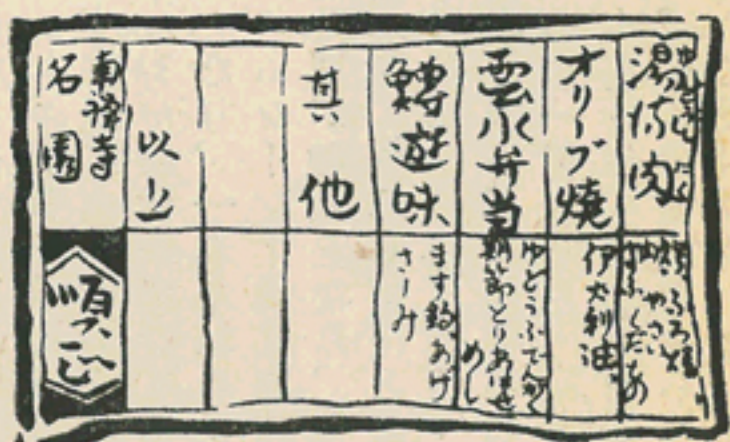


招待者

加茂儀一先生、小林象三先生、畑信太郎、神田正英、墓目英三

出席者

卒業年次
桐田 鉄郎(大1四年)
森下 弘(大1四年)
越智 易延(昭七 年)
山村太兵衛(昭一二年)
堤 正五郎(昭一五年)
松本 義夫(昭一五年)
藤原 輝雄(昭二二年)
茶木 博治(昭二五年)
小田島和夫(昭三一年)
神田 隆志(昭三六年)
田中 敢二(昭三六年)
石丸 祥年(昭三七年)
笹島 康平(昭三七年)
今 俊明(昭三八年)
水古 祥進(昭三九年)



京都支部では去る五月十三日夜、京都東山にある料亭「順正」で春期総会を開催した。

母校からは加茂学長を、また在京の小林先生をお招きし、東京支部よりは神田事務局長、大阪支部よりは畑信太郎氏(大1四)墓目英三氏(昭一一)の参集を得て合計二十名、会も一層盛大となった。

森下支部長(大1四)の開会の挨拶に始まり、新入会員の紹介や自己紹介と続いた。これがまた、母校の思い出の樹に次から次へと花が咲いた。時折五月の雨が雷を伴い、稲妻が新緑の庭を瞬間に照りつける事もあった。雨が止むと樹々の涼風がいまままでの蒸し暑さを流がす。

自己紹介も制限時間(?)を超過する者続出!!
その後も学長・先輩・後輩間の交歓が続き、時間は矢の如く経って行った。

最後に加茂学長より伸び行く母校の話を伺い常に変わらぬ学長のフアイトに一同ただ感激する。
名残り惜しくも散会の時間も近づき、支部長より「次期総会にも必ず御出席を」との挨拶で閉会となった。

本日の出席者は、上記の通りである。
(京都・神田記)

アサヒビール ミツ矢サイダー

朝日運送株式会社

代表取締役 畑 信太郎 (大14) 大塚 武雄 (大15) 藤井 幸男 (昭9)

本社 吹田市三七八八番地 TEL (大阪) 2357

営業所 神戸・西宮・吹田・大阪与力・淀川・住吉



↑学長挨拶 ↓会場風景



「わだつみに消えた同志を偲び、心暖まるヒューマンなつどい」
加茂学長は、精力的な風貌を赤らめながら、静かに、些かの飾り気もなく、誠実に語る。除々に熱気がこもる。

「校舎の大改築の中で、是非今は亡き、今次大戦に散った同窓の霊を祭る所を置き度い。朝に夕に、学園全体の心からの礼拝を捧げたい。若き学生諸君に、先輩からの血のつながりを、胸中深く刻み込んで貰いた

大阪支部総会(大阪中之島銀行協会)

感激の一夜(五月一日)

戦歿学生特集号を発刊せよ!

「い」この言葉は一時の思い付きでなく既に故人の写真、戦死当時の状況等丹念に集めて居られる。言葉のなかに、よし反対の人があろうと、必ず実現せずにはおかない一途の気持がくみとれる。そして同窓生は万人すべて、必ずや賛同してくれるという堅い自信がうかがわれる。

出席全員の感銘は一入のものがあつたと思われ、筆者も平生忘れて居た同級の子息人々の面影が目

現職員と学生
現職員は五十二名、学生七五〇名であるから、一人の職員に学生が十五名である。全国平均一人に対し四十八人の割合であり非常に恵まれた環境にある。

留學職員はアメリカ一名、フランス一名であり、加地フアン(二〇〇万円)により旅費の確保が出来た事を喜ぶと共にアメリカ留學中の滞在費の問題も考究中である。

なお将来欧米のみならず、ソ連、中国へも留學せしめたいと考えてある。

学長の将来の構想
六月より四五〇坪の体育会館を建設の計画をすゝめ、図書館の裏山に九〇室の研究室、その翌年さらに延ばして四階鉄筋の校舎を建てる計画であるが四・五年の年月はかかる。

現校舎の正面は、これを永久保存のため鉄函附近に移転して残し度い。

赤煉瓦の建物は記念館として開校以来の記念品を保存し、出来れば戦歿学生を祀りたい。伝統ある緑丘に大学の心樑を作り度い。

電子計算器のため高等数学関係職員六名が居り、小樽商大の特色として数学教育に重点をそそぐ、各大学のように単位制に変わりはないが、特に数学不出来の学生は留年せしめる考えである。

冷暖房及び管工事全般設計監督施工

日邦工業株式会社

取締役社長 井 薬 政 市
相談役監査役 宮 地 邦 介 (大11)

大阪市西区南堀江通1丁目2番地 電話大阪 (531) 8461代 ~5番
出張所 堺市浜寺石津町東2丁目702番地 電話堺 (0722) ③2642番
工場 同 上

神戸支部総会“天京”で開く 5月14日



挨拶する八家氏

加茂学長、神戸事務局長を神戸に迎えて三十九年度神戸支部総会を開いた。本日大阪支部より畑(大1四)墓目(昭一)両氏の参加を得て、合計二十三名の出席、しかも神戸支部会員の大半は新任地神戸への転任者でメンバーの入替えが目立った。

支部長塩谷精一郎氏が欠席のまま、学長の日程等もあり本日強行した。

八家副支部長の開会の辞にはじまった。緑丘会募金運動も一先づ完遂の機会でもあり、役員改選の議をばかり選考委員を五名選出し別室で協議した。

その結果新支部長に湊静男氏(神戸製鋼常務取締役)副支部長二名、即ち八家要氏(神戸銀行取締役)は留任となり、一名水垣敏正氏(エムシーシー食品取締役社長)が増員となり、幹事長本間広松氏も留任となつて役員選出の議は終つた。学長挨拶、神戸事務局長の募金一億五千万円完遂と、七月を以て募金を打ち切るが、個人の申込をさらに引続いて受け度いと説明

- 神戸支部長 湊 静男氏 (昭三)
- 副支部長 水 垣 敏 正氏 (昭五)
- 副支部長 八 家 要 氏 (昭七)

加茂学長 京阪神支部に於ける挨拶の要旨

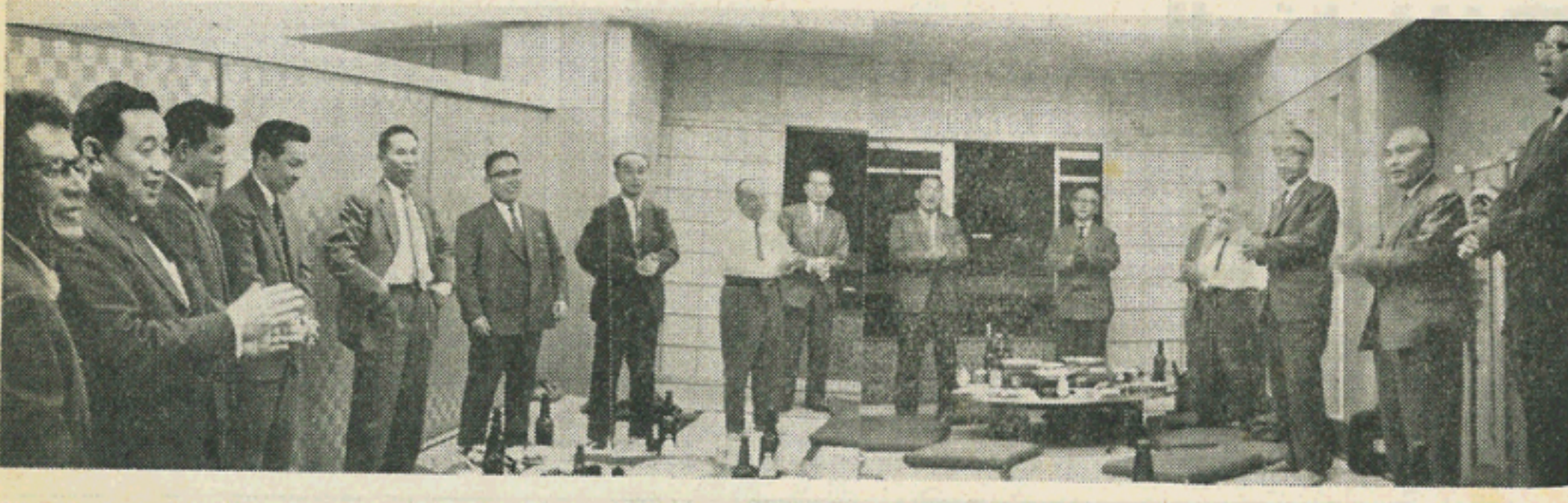
同窓会と大学
小樽商大のように同窓会も学校も一体である事は誠に幸いである。名古屋高商、長崎高商の如く他の専門学校と合体して大学を形成しておる同窓会は第一回生から連綿として今日までの卒業生と一同に会する事は困難であり不幸である。

募金の件
一億五千万円を突破した。計算センターも出来上り、沖電気製オキタクを入れ、六月六日に学生会館の開館式を共に

をする。

ビールの乾杯(このビールはアサヒビール特に畑氏よりの寄贈によるもの)があり、個人紹介を開始した。特に水垣氏の番となるや「緑丘」連れ子論からはじまり、この七年間連続編集の「緑丘」を育成する事に協力、援助の具体的な方法を考えたいと熱声溢れる名調子で会員全員に感銘を与え、場内しばし静まる。

墓目編集長より「緑丘」の件と、西日本大会が十一月五日前後に開催される予定である旨を報告、特に神戸から多数会員の出席を乞うと結ぶ。続いてテーブルの順に自己紹介は廻る。本間幹事長名司会振りてなごやかな神戸支部総会も九時まで飲



談がつづき、校歌、行進歌で幕を閉じた。

浮び、続いて、十数年前の東京のある日の事が、鮮烈な印象となって想起された。

確か十七年の初夏、筆者にとって卒業後初めての緑丘会だった。……苦米地校長から、大洋丸撃沈事件で、勇途むなく海底に消えた数多くの緑丘人の悲しい報告がされた。才月はめぐり、場所は又異なるが、くしくも学園の校長、学長から、同じ話を聞く事は、しかし単に奇縁だといつて済まされるものだろうか。わだつみに散って行った人々が、



会場風景

今は物言うすべもない以上、私共は代つて何を考え、何を行動したら良いのか。

戦争の罪禍はいまさら論ずるまでもない。母国の平和と安全、そして母校愛と友情の強い絆を心に刻みながら死んで行った人々の事共が余りにも忘却の彼方に置き去られすぎて居なかつたらうか。

生存者のみの緑丘でなく、戦没者に限らず、すべての亡き人々を含めた歴史的現実が真の緑丘の姿なのだ。迂遠にもいまさら思う。本日の会合の最大の山場は此処にあった。出席者は年令を問わずすべて、無形の絆を、こんなに直接強く意識する事は数多くなかつたと、誰しも心の裡に呟いたことだろう。

果せる哉、席を移しての懇親パーティーで、椎名先生を始め各人各様の思い出話が続く。それも、戦争のキレイ事を誇張し手柄にするような自慢話でなく、心のこもったしみじみとした内容で。

さらに大方の関心をひいたのは、あの思い出深い正面玄関の建物が改築に際して、そのまゝの姿で、市の好意で銭函に再現するという報告であつたように思われる。改増築で立派な壮大な校舎が実現する事は大変結構な事だが、私共の胸中深くシンボルとしてイメージに残る、あの風物が失われるのは何ともやり切れぬ思いだからだ。

続いて若手教授陣がやがて大西、手塚等の諸先生の輝かしき業績について、小樽学派を創り上げる日も近かるうのお話も、また感銘深く拝聴した。巨大な電子計算設備も、図

書館と、また学生会館も、今日の最も通俗的な意味での技術化した経済学の主体性の復活なくしては意味をなさないのではなからうか。

経済学に止まらず、学問の殿堂として、内容の充実を特に望み度い。広い分野の平板的知識を習得して、器用だが、バックボーンが欠けた。いわゆる優等生だが味の無い技能者養成に終つてはほしくないと考えられる所だ。

世の一般の総会、大会の形式的、無味乾燥な集いに比し、特に本日の緑丘会は、或は型破りともいえる心のこもった、心暖まる盛会に終る事ができた。

これは伝統の純粋性と、学園と同窓、同窓相互間の強い共通意識と、そして、これを守り育てようとする全員の友情が齎らした事は疑うべくもない。

しかし、意識が意識にのみ止まつて居ては本日のような具象の姿はありえない。

当支部歴史の役員の方々の献身的な奉仕にただ感謝あるのみである。

ことにいよいよ全国版として価値ある存在となつた、「緑丘」の育ての親である藤目氏の苦心と努力を決して忘れてはならない。

会の終幕近くに及んで、この感謝の気持ちを緑丘会のための積極的行為として些かでも実現されなければならぬと痛感した。

本年新入会の眉目秀麗な十三人の若き諸君を交え、総員の心からの校歌合唱のうちに、宴はフイナールとなつて、三々、五々、夜の街のトバリに散じて行つた。(清水記)



(清水記)

た。この英語の主任教授は岡崎図書館長でなくなるまで独身を通過した中村賢二郎先生だつた。

語学の天才講師

私は大した目的あつてではないが第二語学にロシア語をとつた。先生はモスクワ大東洋語出身のN・A・ネフスキー講師、日本の古典を学んだので、最初は「あわれぞかし」といった古文調の話し方だつたそうだが、一、二年のうちに現代日本語をマスターし、私がならつたときには日本人とまったく差のない口調だつた。生まれながらの語学の天才といえる人で、七カ国語を話した。ペルリツツ式実物教育という。日本語に對比しないでロシア語を覚えさせる方法をとつた。民俗学の先駆者で積丹出身の奥さんがいる自宅へいくと、東北地方の土俗人形や祭事用の石製器などがあつた。大阪外語に移つてからも琉球語を研究したそうだ。小樽を去るとき、蔵書を奥さんの実家に置いていったが、それを後に小樽の古本屋が発見してちよつとしたニュースになつたことがある。

実業人の倫理養成

渡辺校長は実務教育中心主義をうち出し、十周年記念式典でも商業実践、企業実践、商品実験の三つを他校にない独特の学科であるといわれた。しかし、単なる実務教育ではなく、実業人の倫理養成といった面に力点を置き、三年の在学中は帳簿やソロバン術をマスターすることでなく、商業の基本を教えるべきだとしていた。だから、商業学校には不用のようならぬ哲学もあり、最も重点をおいた英語も実用商業英語より帝大英文科卒の文学士が多かつ

あゝこの人



人物学園史

越崎 宗一

(大一一)

五番目の国立高商

東京、神戸、山口、長崎について全国五番目の国立高商が小樽にできたのは、明治四十三年。日露戦争の後、カラフト、沿海州、朝鮮などとの交易で、当時の小樽はまさに日の出の勢いだった。人口は九万を越え札幌区をしのぎ、高商設立には函館と取り合ひした。土地を寄付し建設費のなかば以上の二十万円も負担するといった地元の人たちの熱意が、小樽高商を生んだといえよう。ノンビリ学問に精進できる現在の位置を定めたのは、一つの先見だつたと思ふ。

和服姿の若き秀才

翌年五月入学式をしたときは渡辺童聖校長以下、教授六、助教三、生徒七十二。私が現在の緑陵高、当時の小樽商業からすぐ坂上の高商に入学したのは大正八年だから九回生になる。私が学んだ教授のなかで、異色だつたのはやはり経済・財政学

た。北大の高岡熊雄教授の植民教養講義もあつた。しかし、良い先生には恵まれていた。十年に講師となり、翌年教授に昇格した大熊信行先生は経済学というよりラスキン、モリスなど英国の思想家に傾倒し、社会思想的な歌人としての印象があつた。

こうしたところから、高商には珍しい文学者も生まれたのだから。小林多喜二君は小樽商業の二年後輩で商業学校時代から月一回文学を語る会みたいな会合に出た。高商にはいつてからも、マルクスの名は聞いたぐらいで、あまり行動にあらわす方ではなかつた。たぶん、卒業後拓銀にはいり、私の勘定は性に合わないし、いろいろと矛盾を感じたのでないだろうか。「不在地主」や「蟹工船」などを書き、文学活動が目立つたのは後のことだ。伊藤藤整君は私の卒業した後に入学したので直接には知らない。俳句の高浜虚子のむすこ、年尾君も二、三年後輩になる。一、二年後輩には日魯漁業や北洋相互、大阪商船三井船舶などの社長もいる。(北海道新聞所載)

お詫び

「緑丘」三十七号「僕の書齋」越崎宗一(大一一)は(大一一)の誤りでした。(編集部)

伴さんの思い出

越崎氏記事を読んで

菅野祐治 (大12)

北海道屈指の郷土史家、学友越崎宗一君が北海道新聞に母校小樽高商在学当時の思い出を寄稿された。非常によく書かれて居るが、読後何か忘れ物をしたような気がした。伴さんの事が書かれて居ないからである。もちろん、われわれの在学当時は「大西オンリー」だった。随って同教授が病没した時、全校生が眼前がまつくらになつた思いがした事は事実である。しかし、いまになつて思うと一代の奇才大西猪之介に接し得た以上に感謝すべき事は、一代の教育者伴房次郎先生に接し得た事である。もつとも先生の教育は卒業後にもおよび、求めらるれば死ぬまで教え子の力になつて下さつた。何れ刊行される先生の教え子に宛てた数々の手紙が、それを雄弁に物語る事と思う。本当に私達は仕合せだった。こんな奇才、こんな教育者が待つて居ようとは何も知らずに唯入学したのに。

入学早々不思議に感じた事は当時の教頭の伴さんが渡辺学校長以上に皆から尊敬されて居る事であった。ある日校庭で、こんな事があった。われわれ下手同志がテニスをやって居た。観て居た和田佐一郎君が大声で「誰か煙草持つて居ないか」と、われわれに怒鳴つた。言下に「バットで好ければ此処に在るよ」と傍に立つて居られた伴さんが煙草を差し出された。和田君引込みが利かず「ハイ頂きます」と頭をかきかき一本頂いて来たのは好いが、さて寄宿舎に帰つて来るや「ヤイ伴さんから貰つたんだぞ」と誰彼の区別なし、その煙草を見せびらかして歩いた事がある。

こんな事も思い出す。正気寮で頻々と盗難が続き、到頭其の犯人が警察の手でつかまつた。ある晩、被害者の皆が寄つた時、舎監が「実におの男はけしからん」と憤慨した時、同席された伴校長が一同を顧みて、諸君は盗られた品物が、それぞれ返つて来たので一応は氣も鎮まらうが身から出た錆とはいへ、私の不心の為、この寒夜に鉄窓の下につながられて居る一人の教え子の事を思うと筆を執る氣にもなれない」といつてさめざめと泣かれたそうである。われ等の伴さんは、そのような方であつた。そして私達は好い氣になつて卒業後も、亡くなられるまで、その温情に浴して来たのである。伴さんの為、寒い北の端の小樽の想い出が何時何時までも私達全卒業生の胸のなかに暖かいのである。

May God bless him!

(三月二十五日)

普通倉庫業

東罐倉庫株式会社

取締役会長 佐藤 栄 治 (大14)
取締役社長 堂 城 不 二 人 (昭2)

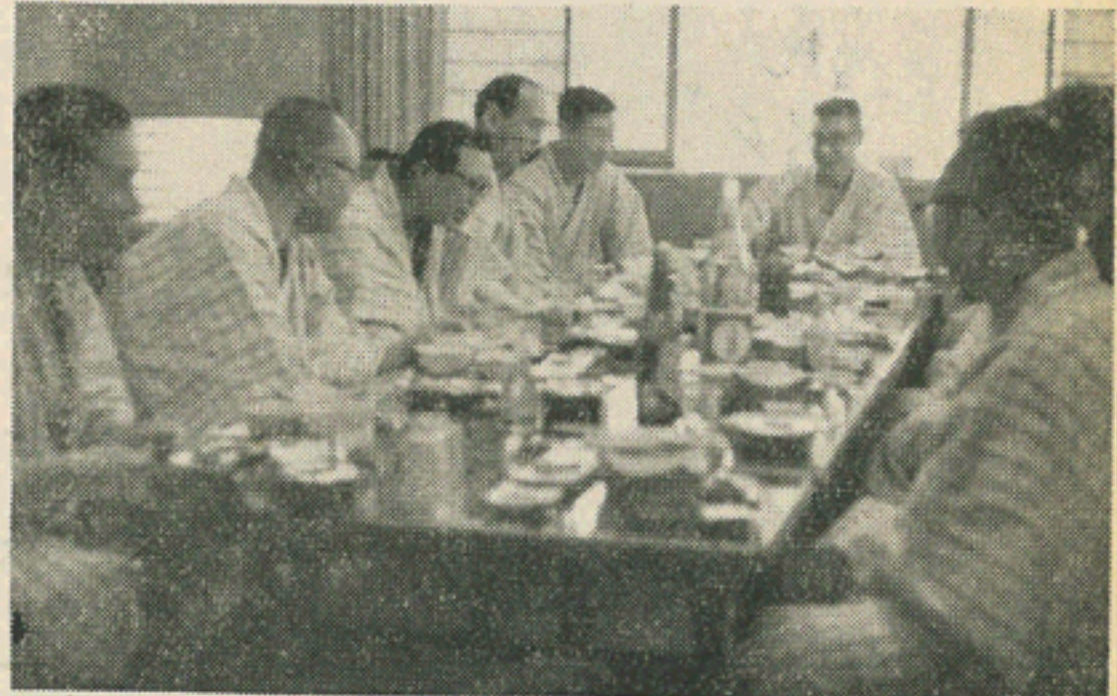
(本社) 大阪市北区中之島5の17 電話大阪443151(4)
(支店) 大 阪 市 茨 木 市 青 森 市
(営業所) 東 京 都

全道昭八会クラス会 学生会館落成記念

去る六月六日は、母校に待望の学生会館が落成し、この祝賀会が盛大に開かれたが、吾が昭和八年組は、この佳日を期して在札、樽の外、道内の有志を集め会館の偉容に接した後、郊外朝里温泉郷觀光ホテルに集合御招待申し上げた大野、室谷、久木、松尾、木曾の諸先生を迎え汗を温泉に流した後、浴衣に着替へ、祝賀の宴に移った。この日特に地元側の有志より、市内メルボンのホステス多数、また酒類等の寄贈があり、何れも三十余年前の若者になつたつもりで、夜の更けるのを忘れた。各先生よりユーモアたっぷりのスピーチがあり、各会員よりも自己紹介やら、のど自慢が披露され、約半数の宿泊組を残して散会した。出席者左の通り

学校側 大野、室谷、久木、松尾、木曾の五氏。

会員 【函館】石崎、中津
【札幌】堀、井須、岩崎、森、永井(久)、中野、佐藤(益)、佐々木(徳)、品田、山本(繁)、山本(正)
【小樽】本間、藤原、川田、美浪、佐藤(良)、佐藤(功)、鈴木、山本(信)



で悪意はさらさない。会が進むにつれて男性の喧騒はご多分に洩れず、いささか度を越してきた。夫人達は少々おそれすぎると見たので、私は夫君と連れだって悪友のいる、その男性席へいかれたら、もう少し変わった風情が出るかななどと思いつつ、腰をあげて夫人席へ駆け寄りに出かけた。畑、佐藤、原田の三人の前に座して手前味噌をならべた。笑つてもらつて居るうちに時間がたつて、あちらこちらで、元氣のいい校歌、応援歌が、終り、終つては始まった。引っぱられるのをさけて廊下に出ると、会の進行に氣をつかして立っている山本嬢に会った。

個室に戻ると広い部屋は黙然としていて、伊豆の山奥の夜は、意地悪いくらい空寂にみちていた。

大一四 40周年に ちょっと早いクラス会 思い出せぬ名と顔

屋代 栄三郎



ひと口に四十年というが顧みると実に長い年月である。四十年前の友人が同期生会をするから集まれという連絡が畑君から届いた。大型の封筒のなかには東京の幹事からの通知とともに船原ホテルの宣伝案内文が入っていた。

三月二十日、昼過ぎに東京に着いたが夜はかなりの大雨となつた。翌二十一日に忘れたような空の清々しさだった。東京から三島へ電車で修善寺へ、修善寺から車で船原ホテルへ。ホテルの入口近くに専用受付があり、ここで氏名を名乗る。ひどくいんぎんで慣れた受付だと思つたが後でみると、これは三井船舶の由本秘書嬢と分つた。紙靴をききつめた広くて長い廊下の両側の部屋々々には割当てられた。宿泊者の名前が記されて、誰が出席するかは、これを見ていくとよくわかつた。なつかしい人ばかりだった。

部屋に入ると偶然にも同宿は三浦君だ。彼とは数年前に大阪で何回か顔を会わせた仲である。一度会いたいと思つていたところだ。そこへ今度は一才思い出せない人物が、わが部屋に入来である。名乗つてくれた人は大沢三男君だ。続いて白井孝一君。よく見ると昔の鼻高の美男子が浮べられるが、いささかとした。私は白井君とは入学そうそう北斗寮で同じ部屋に生活した。よく唄うのには閉口したが、逢うて誠になつかしく、会に出る氣になつた一つの理由には同君のことがあつたことを白井君に正直に話した。

安西東吉君と小柴謙二君のグループが、偶々隣室である。安西君の特徴のある頬骨と目尻は依然として健在でその笑顔のほゞえまじいことも昔通りである。

開会が伝えられた。会場までの往來に昔の顔がいくつか並ぶ。広間は文字通り広く、富士の幕を

もつ舞台に対してコの字型に諸星綺羅の如く座し、コの字の一劃は世帯夫人で大半が占められている。この夫人たちは、みなさん若くて美しく見えた。挨拶のあと室谷教授の挨拶が野武士のフアイトをもって豪快に響く。私の左は原田君、右側に松林君でコの字のどちらに当るか知らぬが、舞台のすぐ前である。続いて夫人帯同の諸君が十人、ことごとく紹介の弁を自ら受け持つ。やゆあり激励あり、会場はまことに賑か、最後に左側の原田君が待つこと久しと醤油の新製品のPRを兼ねて夫人について紹介をする頃ともなれば、満場正に和氣あいあいとなる。

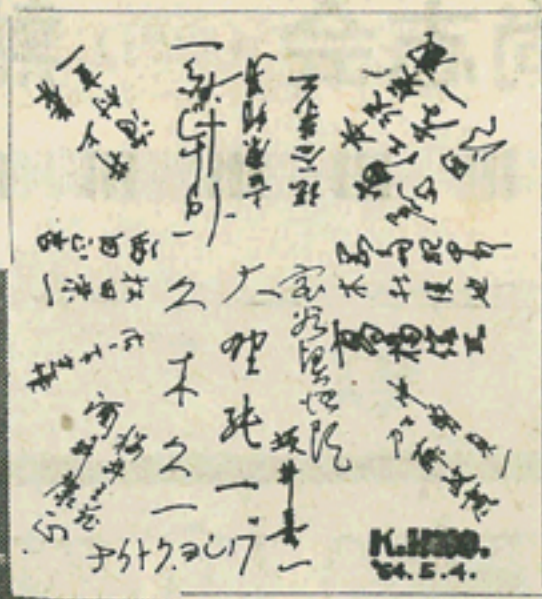
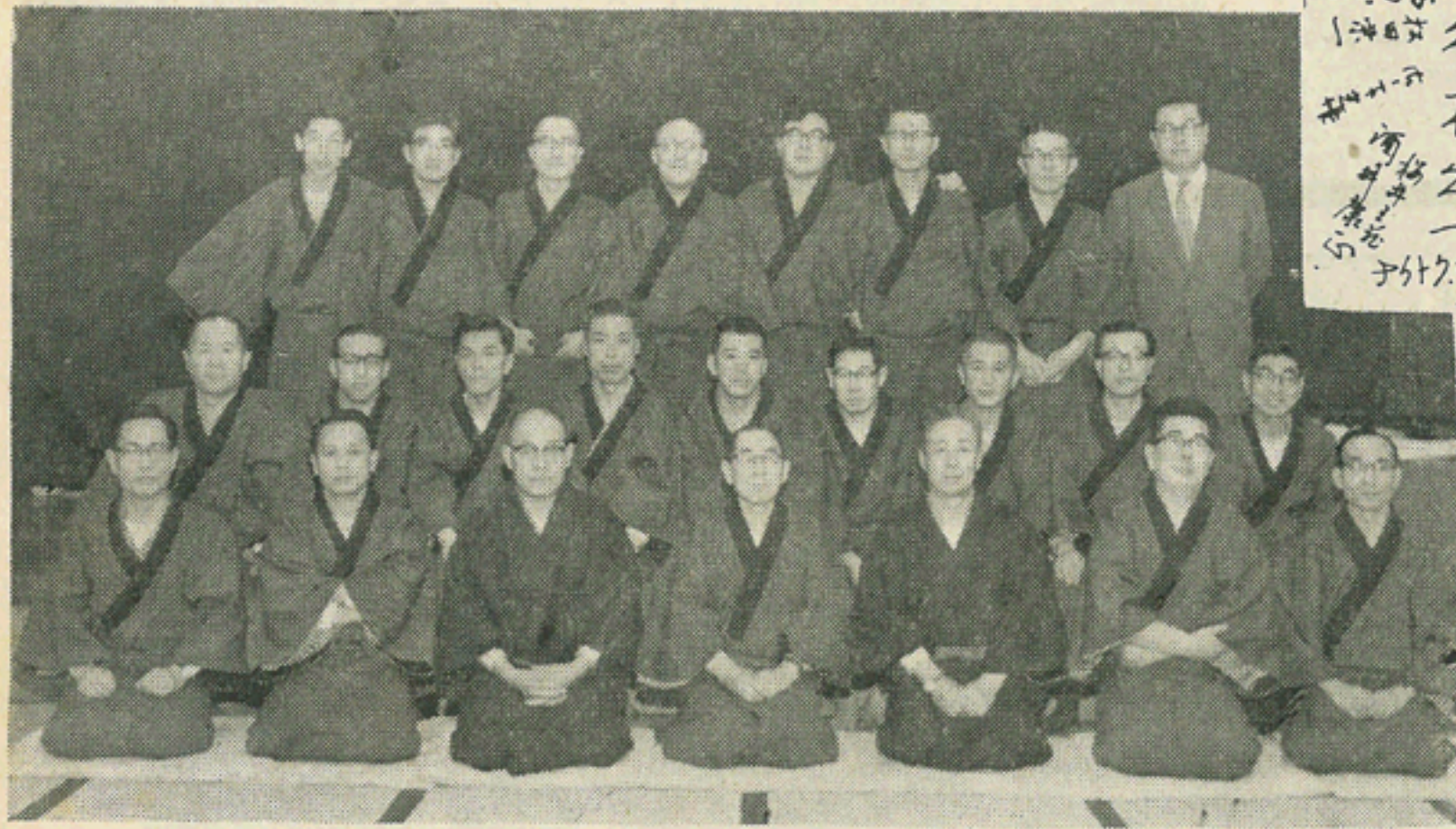
正面の室谷先生は若かりし緑丘時代にくらべ、どうも髪の方が尖鋭した貌、その左側の佐藤栄治君は、いま高崎氏の亡き後東洋製缶の大御所であるが、在学時代私より年長でどつか世帯じみた先覚者の感があったがいまはさらに落ちついて好々爺然として居る。

その横の進藤孝二君は新会社の社長で張り切つていて、デブぶり肥えだが、往年のトレーニングパンツをはいて、奥目を眼鏡の底からギラギラ姿が髣髴する。

四十年振りに顔を合わせてはやはり誰だかわからぬ顔が多い。しかし久しくして会うことはいいことで、特になんのわだかまりもないのは、こよなく嬉しい。あとでは一々じかに名前をきく(非礼をと思いつつも)始めはこっそり、あれは誰かとたづねたものだ。きいたあとしばらくしてまたわすれて、心中を迷つたがこれは忘却力のしからしめるところ

25周年を迎えた澁柿会 (昭14)

定山溪 章月 5月4日



澁柿会 (昭一四) に馳せ参ずるの記

三十周年は東京で

北条恒一

網谷君から卒業後満二十五年の級会を、北海道でやりたいと思うが、どうだという年賀の挨拶をかねた便を戴いたのに応じて、三浦君に相談したところ、昨年の七月の級会で、

次期の幹事になっていて大沼君にも呼びかけて相談しようじゃないかということになり、一月二十二日の夜三人で会うことになったが大沼君にふられ、三浦君と二人で、二、三軒飲み歩いてるうちに二人だけでも万難を排してゆこうじゃないかと、期せずして壮行会になったのは銀座は「みちくさ」であった。とりあえず、茨城県は那珂湊の桜井君に網谷君の意向を電話し私共のことも

話しておいた。ところが待てど暮せど、そのどこでどのようにしてやるのか連絡がなく、私は短気をおこして網谷君に「やるのか、やらねえのか」と電報をうったりして、失礼しちゃった。正式の案内状を手にしたのは、四月十八日。ところが、東京の連中の名簿が大沼君のところにあるのだが、彼が忙しくて、その名簿が手に入ったのが二十五日、いかにもおそい。しかし、東京の級友には、その匂いだけでも案内状を送ったのが、四月二十六日。会日五月四日の一週間前じゃ、どうにもならない、三浦君も氣勢をそがれたりして、結局、東京から私一人。桜井君が夫妻で行ってくれたので、まあいくら心がやすまった。

「いようッ。北条君ッ。」と握手の手を出されたのには驚いたのである。写真撮って酒がまわるにつれておかしなものだ、みたことのあるような、ないような顔が、すうと消えて、昔のままの顔になってしまったのである。Pとか何とか襟章のついた制服を着て、丘を上り下りしたあの当時の顔になってしまふから、おかしなものだ。頭が薄いと白髪だとか、てんで問題にならないのである。大野前学長もお元気だし、久木教授に「僕は先生の交通論だかなんだか、つかんじやって、お願いにいったことがあるんですよ。」と言ったところ、先生「そんなこともあったかな。」と漂々たるもの。そして健康そのものである。大広間で円陣をつくるのストーム。応援歌、感激の歌で会はクライマックス。はるばると馳せ参じてよかったと思つたことばかり。翌朝。閉会に当って三十周年の級会は東京の近辺でやってほしい、その世話役を私にとの指名であったが私はそれまで生きてるのか、どうかわからぬ、というのは四十才になつたら兼法法師にならつて死にたいと思つていたので、何の因果か、まだ生きながらえて、天下に恥をさらしている始末だし、生来の無精ものなので東京のしつかりした幹事さんに、しつかり申し渡して、是非実現されるよう御願したい。三十周年のときには、少くとも半

【次頁下段へ】

昭二会 全国懇親会を熱海で 6月6日



昭和の第一回卒業生ということになるが、三十七周年ともなれば、物

故者も相当いる。一五九名卒業のうち、一三〇名足らず

た。昭二会の全国懇親会は今回で五回目であるが、去る六月六日、七日の土、日、両日熱海の海岸通り玉乃井本館で開催した。そのときの写真がこれである。集つた面々は札幌、仙台、岐阜、大阪、東京の各地から出てきてくれた。総勢十七名。もつと集まる予定だったがそれぞれ重要な仕事を持つていて、間際になって都合がつかなくなつたり、それにま

会はなかなか盛会であった。地元の奇麗どころが陸田、下山両君の顔で大分集つてくれた。女性というものは不思議に男性をよるこぼしてくる。一杯のお酌で急に元気が出るから面白い。こちらの齢が齢だから水も滴るといふわけには行かなかつたが、その代り芸においては大いに堪能させてくれた。「アアそれなのに、それなのに」などはわれわれの若かりし日の唄、踊りは何だかみたが、振付けと、こなしは堂に入ったもの。老妓の「黒田節」も地方、立方、呼吸ビタリの至芸ではあった。こちらも相当の練達者ぞろい。わけでも二建二君の藤間流舞踊は彼が秀才であつただけに驚いた。地方は名取の陸田君がつとめて「白扇」を踊つたが、これが当夜の白眉であつたらう。酔う程に、その途の大家が次々に喉を披露したが、ここではとても紹介しきれない。平素の疲れを一気に吹き飛ばした。若いところが「熱海トリコロ」を踊つてくれたところから宴は酣。堂城不二人応援団長がうながされて音頭をとり「栄光今や」「今ははや」の応援歌合唱、陸田君が三味線をとつてマンドリン弾き(彼はマンドリン部員であつた)で伴奏する。緑丘熱海を征す。(坂井記)

- 当日の出席者 (ABC順)
- 古川敬止、早川和男、従二建二、
 - 右田熊市、宮崎勝次郎、西村保、
 - 岡田政次郎、大沼金治、陸田清、
 - 坂井直人、下山勝康、佐々木重臣、佐藤一郎、堂城不二人、武内武一、手嶋恒二郎、山崎一
- 以上十七名

東栄段ボール株式会社

埼玉県越谷市大里688番地
電話 越谷(04896) 代表 2111番

正に45周年 阪神正八会(大正八年卒業)京都に遊ぶ



前列(左から) 松林敏, 佐々木嘉夫, 湯川励
後列(左から) 松木善兵衛, 西村百太郎, 谷本朋次, 福田誠

正八会(大正八年卒業生の会合)では今年拾度卒業四十五周年になるので、それを記念して東京で全国大会を開いた。大山、間室の両学兄が早くから準備を進めて趣向をこらし去る五月十五日、芝白金の大名料理「柳生」で吾等の思出深い苦米地先生ご夫妻を招いて一同さむらい姿に

かみしもを着け、一日大名になりすまし皆々ご気嫌で大盛会であった。集った者は会員、東京二十五名、北海道六名、大阪、名古屋、仙台各一名、それに苦米地先生ご夫妻の計三十六名であったと間室学兄からの報告があった。都合で東京大会に参加の出来な

った人達で関西でも記念の会合を開こうということになって、五月三十一日の日曜日に西村、湯川の世話で屋間は京都の遊覧、夜は嵐山で一席酌み交わそう、ということになった。皆阪神方面に数十年の生活をしてる者が多いのだが、ゆっくりり由緒ある寺や景勝の地を觀賞する心と時間のゆとりを持たない吾等にとつて、バスガイドが説く二条城、北野神社、大覚寺、仁和寺などの説明を興味深く聞いた。夕方は桂川の舟遊びに夕陽が青緑に映える嵐山の景を賞し、河畔の料亭「対山坊」に落ち付いた。
四十五年振りに会ったという者もあつたが、飲むほどに酔うほどに緑丘時代そのまゝの談論ふうはつとなり、谷本君よりは東京大会参加の模様を詳しく聞き、皆々人生哲学やら宗教やら失敗談から、自慢話等々尽くるところを知らなかった。
皆々また会う日を約して、ほろ酔い気分て渡月橋を渡れば、川面を撫でる涼風は吾等の頬に爽やかであつた。
因に当日の出席者は次の七名である。
西村百太郎、谷本朋次、松木善兵衛、松林敏、福田 誠、佐々木嘉夫、湯川励



共栄火災海上保険相互会社

本社 東京都港区芝田村町1丁目3 TEL代(591) 6431
大阪支社 大阪市南区安堂寺橋通2丁目9生協会館内 TEL代(261) 7356

尚志会(昭四)熱海で35周年同期会



三十九人若き日の感激が魅える
今日の欠席者よ次には会おう

5月8日 於 つるやホテル

昭和四年度卒業の尚志会三十五年の集いが去る五月八日新緑香る熱海温泉で行われた。場所はお宮の松のすぐ前、熱海第一を誇る、つるや旅館、集合時間の午後二時、この日のために全国からはるばると馳せ参じた昔日の紅顔の男共、(夫人同伴三名)一目や二目見ただけでは誰かさっぱり分らない。お前は誰だ。お前は誰だと聞くのに急がしい。それでも二三分後には三十五年前にさかのぼる話に打ち興じて行つた。
間もなく総会が始まる。まず東京から御出席の苦米地元校長先生の御訓話、八十才の豊富な御体験、いつに変わぬ温情あふるゝお話しであった。続いて全員が、その間の消息を報告、一人三分に限定したのに予定を一時も超えて、午後七時までかかる、これは幹事(進行係)が悪いのではなく、毎年やらない責任だといふことになってようやく総会は終わったが、風呂に入るのは、お預けとなり五分で浴衣に着替えて大広間に集まる。
芸者が十人位いたかも知れない。舞台上でバンドマンが何かやっている手踊りも初まる。だが誰も、そんなものを見ようもしない。三々五々集まって話に夢中である。芸者があきれて、何の会合ですかと。それではそつとしておいて上げるのが一番とただ坐っているだけ。
そのうちに北海道から来た八人の士達が揃いの浴衣でソーラン踊りをやり初めた。温習会に通い、家族のものに浴衣を縫わせたそう。どうやら盛り上つて来た。やはり北海道が出なけりや。やがて岡部応援団長

年位前にすっかり準備をして、案内状も早く出し、負担の公平を期するために、東京の連中で地方の親友の旅費の半分位持つ覚悟でやれば、沢山の人が集つてくれるのではなからうか。二十五年目の二十六人はちと淋しかった。しかしうれしかった。
が坐布団をゆり動かしながら、なつかしの行進曲が一同輪になって、勝利運動が、思ひは完全に三十五年前の小樽の街、札幌の街に帰つて行くのであつた。
この日集会したのは三十九人、何かの都合で出席出来なかつた人達がなつかしい。あいたかつたという声がかきりだつた。ほんとうに行つてよかつたと思つたのであつた。翌日朝食後、また会おうぜ、元氣になと東西に散つて行つた。(小山記)
当日の出席者氏名は
(東京地方) 逢沢正男、青塚康毅、伊達盛二、八谷一郎、鉢呂源三郎、浜浦英祐、原貞雄、小林重雄(旧姓柿崎)、加藤秀一、小泉省三、宮袋虎雄、三井田清弥、松村健、大場忠久、佐藤芳英(旧姓麻上)、佐藤清定、田中弘康、東郷重雄、杉山力
(北海道地方) 波方清、池田昇一、池田宣弥、駒井幸一、松本要一、中川精一郎、岡部勝平(旧姓樫木)内堀賢郎、横井七之助
(東北地方) 服部政一、石川良之助、大森光二、五十嵐金五郎
(北陸地方) 上勢清次
(阪神地方) 今井四郎、小山健児、富成宣清、渡名喜守導
(中京方面) 高橋一男、糸魚川伍郎

緑士会(大一一)京都へ

東京・浜松・富山・三重からも

去年から待たれた京都での集いが五月七日八日に催された。午後三時、祇園会館へ集って、まず都おどりを見物。終って銀閣寺ちかくの碧光園で一泊。翌朝は、バスを備って銀閣



寺、二条城、御所をめぐって洛北平八茶屋で昼食の後、修学院離宮を拝観して午後四時過ぎ京都駅で散会した。

新緑の古都を訪ねて素朴の友情を温めんと集まった顔ぶれ

は小橋、小関、大場、太田、功刀、井上、神沢、八幡、杉山、松岡、竹村、山田の諸君に小生。さらに錦上花を添えて小橋、大橋、功刀、小関の四夫人方も参加され一行十七名となり、回を追うて賑やかなこと。

京都のことは既に人口にカイシヤされ、筆に尽されていることとて、あらためて拙文に托するも稚戯に類することならんも、われ等の集いの意味するところ、参会者の心々を思う時、二日間のコースをたどって、私なりに何かを書き綴らねばならない。

「都おどり」その華麗さはいまさら申すまでもなく、ダラリの帯は何時になっても京の名物である。御土産

串ぬき団子を意匠にこめた菓子皿はいまも昔に変わらねど、御点前の美妓の気品の薄れしは、時代の流れというものか。

「碧光園」

専売公社の寮、杉山君の肝入りで一行の宿となる。銀閣寺に近く、元は西陣のさる旦那の別邸なりしとか。初カワズの声も聞かれて閑静なたたずまい。一同ここにおちついてまず話に花が咲く。小樽時代の追憶は何時もながらに種は尽きない。やがて老人共の常として健康管理のくだりになると、御粗末ながら、ちの治療法等の体験談も飛び出し、御同席の御夫人方も思わず笑い興ぜられその御心持は、我が子のおいたを眺めて喜ぶ母の心境に通うものかと思われた。夜は三味の音を欠く宴会ながら壯者を凌ぐ元氣者揃いとて、仲々に面白く興尽きるを知らず三更となり、奥様方は別室に、野郎共は通しの三室を占領してごこ寝の快をむさばる。

「銀閣寺」「二条城」「京都御所」「平八茶屋」中略

「修学院離宮」

案内記によれば京都の東北部、比叡山のふもとに近く背後に御茶山を控えた景勝の地を占め、山腹の傾斜地を利用して、上中下の三つの御茶屋を配置した雄大な構想になるもので、十七世期中期に後水尾上皇の御山荘として、まず上と下の御茶屋が造営され、中の御茶屋は朱宮御所として営まれ、のち林丘寺門跡となつていたものを明治になつて離宮となつたとのこと。ここは吾等一行の特に御気に召したところなれば、

後々の思い出ともなるべく、少し詳しく詳述することにする。

下の御茶屋の御幸門は軽快なコケラ葺の屋根もつ簡素な門、続いて竹を詰張りした清楚な垣があり、中門を通過して内庭に至り、寿月観と扁額をかかげた御茶屋を拝観。苑池の幽スイに心を洗う。下の御茶屋の東門を出れば松並木道。眼前には御茶屋山がなだらかな姿を見せている。切妻本瓦葺の棟門があり、左手の中門を通れば中の御茶屋。人工の美はここに尽き新緑に映えて清々しく到底筆舌につくし得ぬ。誰れかの句に「薫風や黄金づくりの太刀佩いて」とあり。転々殿上人の昔をしのぶ。

これより、さらに山腹に道をぬうて上の御茶屋に至る。中の御茶屋の人工的ななるに、ここはあくまで自然に順応して人工を加え、茶屋も至極簡素なり。谷川のせせらぎ流の音。浴龍池とよばれる池をめぐる苑路には百何十種類ともいわれる木々の緑が織なして訪客を喜ばせてくれる。それにしても上中下の御茶屋をめぐって四キロ近く、山腹の坂にかかれば奥様連れの諸君はツボ坂ならぬ「妻は夫をいたわり、夫は妻にしたいつつ」のうるわしい情景を見せてくれ、ほほえましくも思われた。

「さようなら」

遠来の諸君は御疲れだったことだろう。それにしても二日続きの好天気、御同慶の至りだった。来年は初夏を選んで北陸路へ。夫人を伴わぬ仁からは会費三倍徴収と談笑裡の約。

(宮地記)

昭和11年

中尾、墓目両君を迎えて



六月六日午後五時、東雲町「とき安」で中尾君(急用あり東京へ戻る)墓目君を迎えて集った。札幌からは鎌田君が出席。高橋宏造君のみ遅刻で取り敢えず九名で座談にふける「時安」には昭五卒の未亡人が居る。仲々座持ちよく、母校元教授の事には特に詳しく男性九名に話をするすきさえ与えない。小樽弁丸だしてXYZ談にかけては天下一品、料理は何んであつたか、彼女の顔にみんな見とれて二時間を経過。食事に入った頃。高橋君合併教室に現われる。墓目君は終バスで余市へ走る。(小田島記)

三十年振りのスキー



今年春三月下旬、東北蔵王スキー場に旧友須永君とスキー行を楽しました。丁度小樽で共にスキーを覚えて三十年振りに一緒に滑れる機会に恵まれ、大いにハツスルしたもの、年には勝てず、運動不足のため足腰の弱体化が目立って感ぜられ、転倒の連続でしたが、夜の飲みスキーは、また格別の情緒豊かで楽しいものでした。本日その節の写真一枚同封致します。卒業して三十年振りに一緒にゴルフをするのはあつてもスキーをする者はまず珍しいのでしよう(宮内記)

昭九 三十周年短報

六月七日午後四時より昭九会三十周年記念大会を熱海で開催。八日午前中二次会で昼過ぎ解散。来賓に室賢、大谷、中野、井上、木村先生、会員は北海道組十八名、東京組三十名、各地方十七名、計六十五名夫人連十五名、相当なものでした。来賓各々近況報告、室賢代表で学校の現状、大谷さんの大学独立秘話ともいえる話、小樽の街の将来性と母校の存在意義等誠に有意義なものでした。(藤井幸男記)

二十周年記念大会開催

今秋オリンピック後、東京で卒業二十周年記念大会開催の予定です。これにそなえてリハールを兼ね六月二十六日旧丸ビル(八階)精養軒で開催。二十六名の出席。二〇周年を待つ事しきりです。★広部順吉君は富士製鉄本社機械課長に、関晃君は小松製作所札幌支店長に夫々榮転しました。(赤津俊樹記)

昭和9年

昭和19年

(用途) 薬品、食品、煙草、水産加工品

繊維等包装

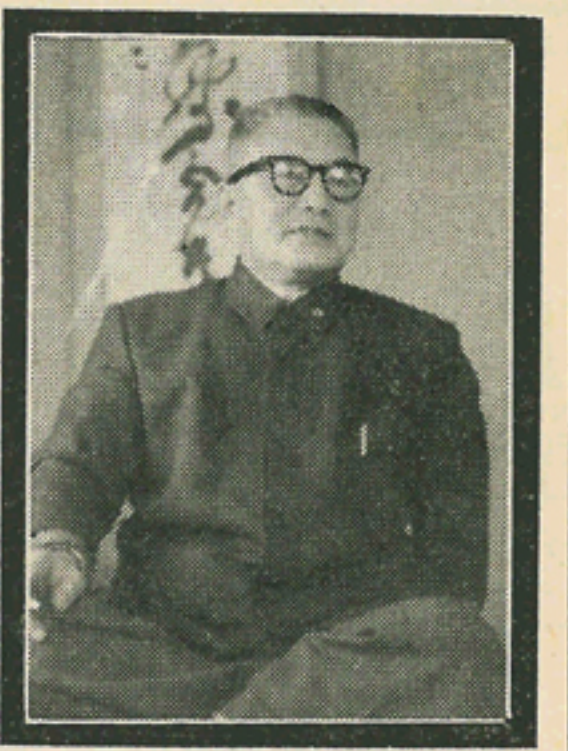
剝離紙 ワツペン 壁紙

株式会社 五洋紙工所

代表取締役 廣瀬 幸次郎
営業部長 山田 光男 (昭17)

大阪市住吉区安立町十丁目三〇番 電話 0175-9
東京都江東区深川佐賀町一丁目三〇番 電話 5757
北九州市小倉区片野本町四丁目二番 電話 7245

貼合せ
箱紙 他加工
ハミ ト
ハミ フ
ハミ コ
ハミ ラ
ハミ シ
ハミ セ
ハミ テ
ハミ ト
ハミ フ
ハミ コ
ハミ ラ
ハミ シ
ハミ セ
ハミ テ



故中川氏の御遺族を訪ねて

大久保 鹿 式 (大一一)

中川久平氏は私の先輩でもあり、戦後中国から引挙げられた直後、御縁があつて私共の会社に御一族とともに暫らく足をとどめてもらつたこともあり、釧路へ行かれてからも、御互いに春秋の便りを交わしておりました。昨年冬迫る十二月三十日死去の報に接し、事の意外に驚愕いたしました。

ところが、奇縁と申しますか、今春二月私は尼崎市議として約一週間北海道視察の機会に恵まれ、途次、釧路に立ち寄り、中川氏の霊前に香をたむけ、御遺族の方々を親しく御慰問申上げることが出来ました。これは故人の霊の御導きと感謝いたしました。

一高等学校のPTA会長)により「最後の坐禅」
故中川久平氏をしのんで」と題して投稿された釧路新聞十数日分を頂戴して帰りましたが、転々先輩の御人徳を偲び、御遺業の偉大さに感動いたしました。
私といましては緑丘が産んだかゝる英傑のこともを私するに忍びず、これを緑丘誌に転載して頂いて、緑丘人等しくその御遺徳をしのぶことは故人の霊に酬ゆる所以かと存じました。
以下竹西氏の玉稿の一部を拝借して、故人をしのぶことにいたしましたよう。

▽……§……△

前文略「それなら一つ先祖の産れた故郷である佐賀県の米で作ったオカユを食わせてくれ……」最後のひとりにも慰めていた丹葉氏に「食いたいと思うものはまあ……そんなものだ」と頭をふつていた。
村田米屋の厚意で取り寄せた佐賀米の白米のオカユも一口でイヤになつたらしく、慰めのツギホに窮した丹葉氏は、なにか目で見るもの、耳で聞くものがないか……と考えあぐんだ。そしてひよつ……とあり、これなら……そうだ、これなら喜んでもらえる……。「ヨシこれだ」一生一代の快男子、不倒不屈の精神を自から実践し、英才教育の礎石となり、いま正に莞爾として死にのぞんでいる、この偉大なる英傑を……永久に我等の範として……そうだ、その胸像を五十年の間こよなく愛し続けた母校の校庭に……それと思ふに当たると丹葉氏は矢もタテもたま

らず、中川さんの病室にかけ込んだ。ともかくも本人の許しを得た上で、みんなに相談しよう……そんなつもりで中川さんに計画の一端を話すと、中川さんも、これには大喜び「ただね……そんな大げさなことより、私は諸君といつても一つところにおられるという喜びが嬉しいのだ……」とのことに善は急げとばかり中川さんの最も親しい、長内、片山、米内、小甲等の諸氏と相談のうえ本人の希望に依り郷土の彫塑家米坂ヒデノリ君に製作を依頼することになった。

十二月七日その原型が出来上り、発起人の人達が病室へ入って行くとき中川さんは、こんな嬉しいことはない……とばかり目を細め、オレにそっくりだ……有難う……有難うと目に涙を浮かべての喜びよう……かくして中川久平胸像建立が本まじりになった。いわく「母校愛の権化、中川久平胸像建立趣意書」若き日には釧路市議会の名副議長として郷土の発展のため、縦横に活躍、さらに大陸に雄飛しては国運の伸長に身を投じ、戦後無一文で帰国してよりは新日本建設を托しうる人材が、いたずらに地中に埋もれるを深く憂えけつ然として湖陵梅楓塾を創設、一身一家を挙げて英才教育の礎石となり北海道総合開発の一環たる人的資源開発に寄与すること絶大。しかして市教育委員長に選任せられては、信望を一身に荷い、重なる難問題を責任を以て立派に解決し、市文化史上に数々たる功績を樹てられ、釧路市文化賞を授けられたる中川久平氏は、その人格まさに高潔、正義、廉直の士と

して尊敬せられ、一世の快男子として大家に親しまれ、慕われ、ことに郷土の出身校湖陵に對する五十年一日の如き真情こめた母校愛は世の鑑とすべきもの。ここに我等発起し、氏の薫風に幾久しく浴したく胸像を建立せんとするものであります」
中略
つづいて十二月丹葉氏が呼ばれ、枕頭に近づくと「オイ……遺言を言うからなにか書くものをせよ」と言い、ずつと前から考えていたのでもあろうか。すつかり暗記した口調で言い出した。「論語に志士仁人は身を殺して以て仁を成す……こういう訓があります。私は志士仁人のよる立派な人格者ではありません。しかしながら仁をなすために身を犠牲にして病氣となり、そして死去することになったのですから、毛頭悔ゆるところはありません。私は勇気と根気をもって、あの世に参ります。皆さんいろいろ有難うございませう。皆さんの御縁が私にありました。この言葉は私が死んだら通夜の晩に皆さんに伝えて下さい。私は今死にのぞんではいませんが、私は死ぬんでなく「往生」するのだ「往生」とはまた生きるということでもあるから、心楽しく「往生」します……とタンタンとした口調で語った。

戒名は「梅楓院心外無力禅居士」これは定光寺の住職とも相談した結果で「梅楓」は常に愛唱し、心酔していた西郷南洲の詩から、また「心外無力」は山岡鉄舟の哲理を信奉してやまない私の心境の現はれであります。とシンミリと述べ、私も山岡鉄舟のような死に方をしたい。」彼の死の原因は「胃ガン」であつ

たそうだが、自分の死期迫る……を知るや危篤のまゝ三時間に余る時間を正座し坐禅を組んだまま従容として死についたと聞く。

「私も及ばずながら、鉄舟の訓を身を持って受けた一人であるからには鉄舟のような立派な最後をとげ、この世に別れを告げるよう、鉄舟にあやかりたい……」と語り最後に自ら筆をとり法然上人の

「散りぬべき秋知りてこそ世の中の人も人なれ花も花なれ」
そしてもう一枚「生中生無死中生有」としたためた……後略

▽……§……△
なお山西氏の文中、釧路中学時代から親交を続けて来られた日本聖公會総裁八代斌助氏との最後の別別、その親友愛の劇的シーンやいよいよ臨終の床、永年苦勞を掛けて来た三津子夫人に對し合掌して其の勞を謝し、あとのことをよろしくと静かに瞑目された等々を拝読し、得がたき英傑の心懐もしのばれて涙なきを得ませんでした。以上

中川久平君を憶う

宮地 邦介 (大一一)

緑丘が産んだ一世の快男子中川久平君が惜しむ可し旧臘十二月末死去の報に接し哀悼の情切なるものがある。彼は私より一年先輩の大正十年組だったが、彼の父祖が佐賀出身というところで、小樽在学時代自ら望んで、九州人会のメンバーに加わり私とは同じく血の多い仲間とし



て、特に親交があり今日まで心の通う友達であった。今その訃報を聞いて、今更の如く彼にまつわる思い出が私の脳裏に浮んで来る。
小樽時代、富岡町の素人下宿に中川、市毛両先輩と私とが同宿していたことがあった。下宿の主人は夫婦二人暮らしの人だったが別に定職はないようだった。或日主人の留守中妻君に「損をせぬ範囲で今少しうまい物を食わせて貰えないか」と申し入れたものだった。
ところがその夕主人が帰ってきて酒を飲み始めたようだったが、暫くすると大声でどなり出した。その罵声を手取るように、二階で勉強(?)していた三人に聞えて来る「青二才共、御馳走が食いたいか、生意気な奴どもが……」という調子。たまりかねた三人が一緒に下に降りて

行ってケンカをかうか話も出たが中川、市毛両君は卒業試験の大事な時、殊に中川君は勉強家だったので降りて行った。ところが囲炉裏のそばで赤ら顔になっていた主人は歯をギリギリ鳴らして、えらい権幕である。私は当時多少腕力に自信もあつたので、防衛ぐらいはできると考え、主人の傍に腰をおろし「えらい御機嫌だね」と先づ口頭一弾を放つてみた。相手は怒声をあげて応酬してきた。やりとり数刻、幸にたたき合にならずに済んだが、先程の権幕は何処へやら、機嫌を直した主人は歌さえうたつて私に酒をすすめる始末。飛んだ茶番劇だった。
しかしこんなことを繰返されては迷惑至極とばかり三人は翌日早速手車を借りてきて、恐縮する妻君には気の毒だったが、他へ引越してしまつた。

その三人の内、市毛君は早く他界今また中川君を失う。感なきを得ない。

あれから彼は、優秀な成績で、小樽を卒業、直ちに一橋へ入り、卒業後、釧路に帰り、父祖の業、材木問屋を継ぎ、若くして市議に選出され副議長の要職にも就いたことがあつたが、その頃一度佐賀へやつてきたが、私と一夕痛飲、得意な裸おどりを見せると呉れたことがあつたが今だに彼の姿が髣髴として目に浮ぶ。その後持つて生れた任侠心が禍しか、日支事變の始まる頃家産を蕩尽し、妻子を郷里佐賀に托し、住みなれた釧路を棄てて単身北支に渡り当時近衛公が組織されていた民間の

文化団体に身を投じ、済南所長として、占領地の宣撫工作に大いに敏腕を振つたこと。
終戦後部下の猛者連五名を従え、これこそ着のみ着のまま故国へ引揚げて、身の振り方を権名先生と私に相談してきた。
幸に大久保鹿式君の知遇を享けて同君の経営になる興亜精鍛矢部川工場(福岡県矢部川町)に部下五名と共に採用してもらつた。
ところが磯村という工場長は至つて、おとなしい人だったし、引揚げ組は血の気の多い連中のこととて、シツクリ行かず、約半歳にして中川君は部下と共に辞職し、意を決して妻子を連れ(この時部下も一、二名は行を共にした)古巣の釧路へ帰って行った。その際私は手持ちの軍服着地と僅かばかりの金を贈つて旅費の足しにしてもらったが、それが最後の別れとなつた。
その後時折の文通で釧路に帰つてからの彼は水を得た魚の如く八面六臂の才腕を振り、釧路埠頭倉庫会社の専務として活躍する傍ら、すぐれた英知と剣道教師の腕前を以て、中川塾を開いて青年指導に尽粋していたとのことは承知していたが、昨年九月二十七日付で「九月以来北大病院に入院静養中です。十一日に胃かのように胃を半部とりました。十月五日帰釧します。貴信に対する返事は追つてゆっくり書きます。」と彼一流の元氣な楷書で認めた葉書が届けられた。そのハガキは今も私の手許にある。
【写真】孫たちに見舞われる中川君

オリンピックの年に贈る!

世界の味

料理缶詰



御中元に 絶賛好評

全国デパート・有名食品店
明治屋等外商部取扱

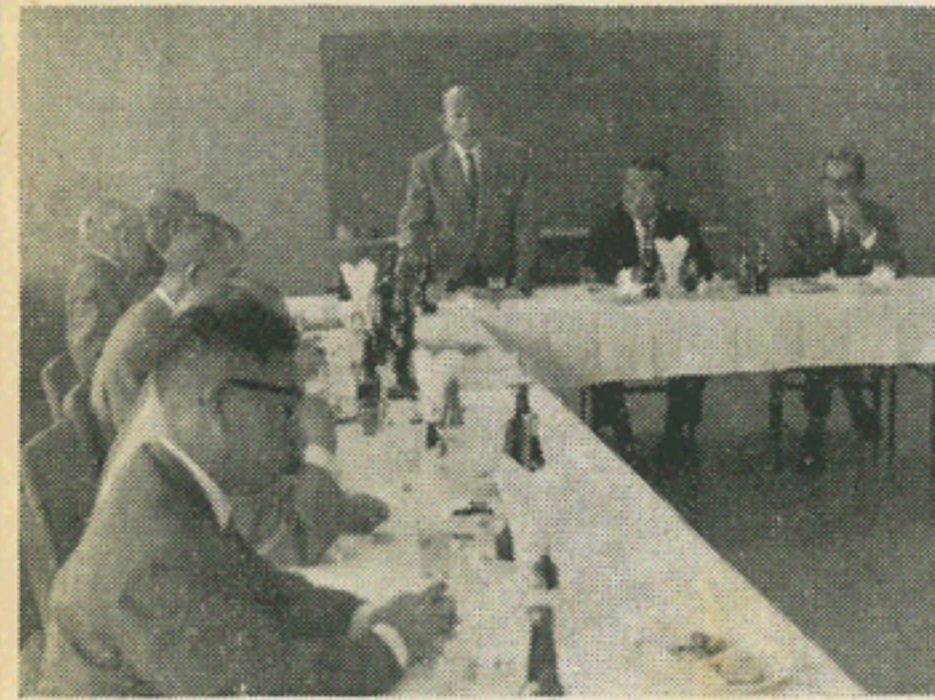
エム・シー・シー食品株式会社

代表取締役 水垣敏正 (昭五卒)

神戸市長田区苅薬通5丁目15 TEL 神戸 (67) 1245(代)



=大阪支部= 6月度 10日会
ミロのビーナス講演



五月十日会は日曜日で休会であつた。今回は丁度京都美術館(五月二十一日-六月二十五日)で開催されているミロのビーナスについて、藤目編集長に解説を依頼した。同氏は札幌、小樽へ出掛けるため六月十日までにはミロのビーナスを見られるかどうか判らぬという返事であつたが、今日は自信あり気に会場(サッポロ

ビール会議室)に現われたので幹事もやれやれであつた。札幌総会に出席、そして翌日小樽母校の学生会館の開館式に列席したという石田支部長より、二十時十五分、開会の辞をかねてその感激のシンを再現して貰つた。大阪はこの日、雲一つない晴天でサッポロビールはうまい。いよいよ本番のミロのビーナスに入る頃、続々緑丘会員の入場があつて、料理を追加するという出席振りで、幹事としても今日の打出興業が当つたなど、やはりタイムイングよき出しものに限ると改めて反省させられた。今から二千年前に作られたというミロのビーナスが発掘されてルーブル美術館に入るまでの解説、このビーナスにまつわる色々のナゾを写真によって説明、ビーナスの中でも、「お尻のビーナス」の魅力すなわちアサヒグラフに掲載されている「お尻の所が汚れているね」といったらさらに曰く「どうも私の知っている限りでは日本人が一番さわる」(笑い)といつて笑つていましたよと朝日グラフの会話の中の一くさりを語つてくれた。未だ見ない緑丘人は再び来日することのないこのミロのビーナスを是非一度見ていただきたい。そのためには日曜日の朝早くは禁物である。藤目氏は入場までに二時間列を作つて九時半に入場したと注意を与えてくれた。なおその帰りに国立近代美術館館京都分館の児島善三郎遺作展の見学をすすめて、美術鑑賞の序に大阪

編集後記

陶芸教室の開設を紹介してくれた。大二三香川清夫氏・昭二堂城不二人氏、大一一四屋代栄三郎氏等よりクラス会の模様を披露に及ぶ。今回もミロのビーナスを記念して合同酒糟野口専務より出席の諸氏にブランドール一瓶宛お土産として寄贈いただいた。紙上を借りて御礼申上げたい。(若山永太郎記)

☆小樽商大学生会館、計算センター開館式特集をお届けします。学生会館の大集会室(一〇四坪)は各支部の尽力により募金せられた一億五千万円の中から二千二百万円を投じて完成したものです。募金は七月末を以て一応完了しますが、個人募金には緑丘人挙つて名を列ね度いものです。引き続き受付すると申しておりますので、学校宛今すぐ。☆「緑丘」発足以来七年目にして、「緑丘」に対する認識を深めていただきましたことを感謝いたします。神戸支部総会に於ける水垣氏の、大阪支部総会の畑氏の発言。「読者の声」の石田氏・水垣氏の発言等誠に編集部手前味噌の記事の取上げ方で申訳ありませんが真実の声として喜んで掲載させていただきます。☆五月は総会月で各支部毎に総会が持たれ、札幌では第二四回全国総会が札幌支部総会と同一会場で開催されました。

力をそいでいたことに起因するものでありましょう。来年は東京で総会が開催されることに決りましたことをお伝えいたします。☆一方各年次クラス会が二十周年、二十五周年、二十七周年、三十年、四十周年、四十五周年を記念し或いは学生会館開館を記念して朝日に、熱海に、そして定山溪におのの多彩な集會を繰りひろげ、そのためご覧の通りの原稿が続々と編集部が集つたことを厚く御礼申し上げます。しかもなお締切日に間に合わなかつた原稿も二、三を数える状態です。一方編集は連日十日間にわたる、五〇頁を越しましたが、経費の関係もあり、十数頁に陶磁器特集原稿IIを割愛し、次号掲載に致しました。ご多用中急いで御投稿下さった執筆者各位には誠に申し訳ございません。お詫び申し上げます。☆新潟震災・豪雨浸水等で新潟地方の緑丘人には多少なりとも被害を受けられたことと存じます。心からお見舞い申し上げます。一部返信のなかつた方々がありますが、恐らく返事を出すなどという余裕もない被災状況であつたかも知れません。どうぞ御身体には御注意下さいますようお願い申し上げます。このような時こそ支部活動に期待しますが、速かな情報(特に緑丘人について)を本部会報を通じ速報として、たとえペラ一枚でも会員に流すことが緊急事と思ひますし、本部もまた進んで現地に手を差し伸べるべきであるかとも思ひます。募金も一段落しましたが更に一層の本部活躍を期待いたします。